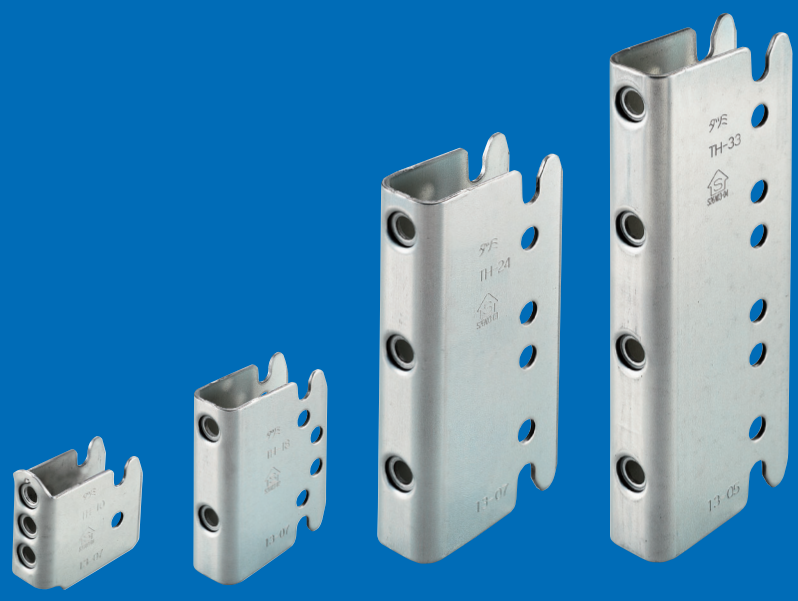
Tec-One



10 テックワン[特長]
12 テックワン[使用例]
14 テックワンP3
16 テックワンTCW
18 テックワン3S
20 ホールダウンパイプ
22 柱継パイプ
23 ホゾパイプ
24 アンカーボルト直結パイプ式柱脚金物
25 高耐力スリット式独立柱脚金物
26 パイプ式独立低柱脚金物
28 高耐力パイプ式柱頭柱脚金物
29 高耐力スリット式柱頭柱脚金物
30 登り梁受金物
31 水平斜め梁受金物
32 火打ち梁受金物
33 隅谷木受金物
34 土台継手金物
34 バリアフリー対応梁受金物
35 ドリフトピン
35 中ボルト
36 丸座軸太ボルト
37 パクトナット
37 ホールダウンワッシャー
37 MZ45用専用レンチ
38 HDCⅢ専用高力ボルト
38 ピン抜き棒
38 ザグリキリ
39 マグネットソケット(12.7角用)
39 ザボリくん A・B
40 テックワン施工について

テックワン
Tec-One［特 長］

1 高品質仕上げ

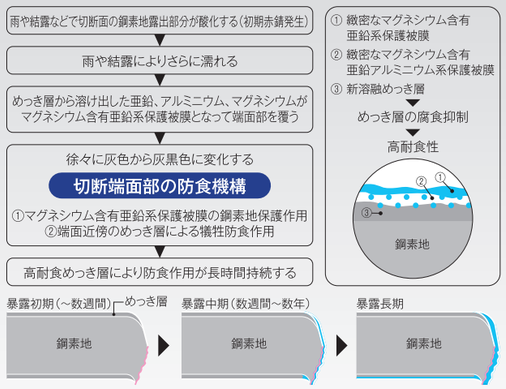
耐食性に優れた、表面処理加工

テックワンは、塩水噴霧試験2,000時間でも赤錆が発生しない高耐食性めっき防錆処理仕様。高耐久住宅にも対応しています。

● 新溶融めっき鋼板とは

亜鉛・アルミニウム・マグネシウム合金からなる非常に微細な凝固組織を有する耐食性溶融めっき鋼板。時間の経過とともに、めっき表面に緻密で付着性の強い二重保護膜を形成。めっき層の腐食を抑制し、厳しい腐食環境下においても優れた耐食性を発揮します。

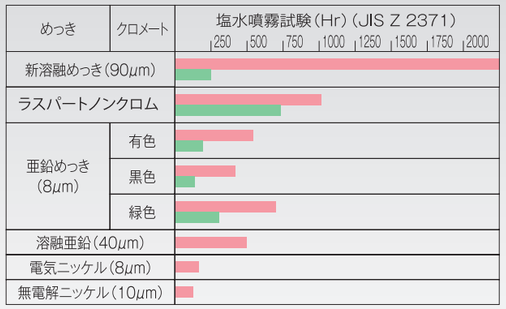
切断端面部の防食機構



● ラスパートノンクロム処理の特長

環境対応型高耐食処理技術ラスパートノンクロムは完全クロムフリーの環境対応型のラスパート処理です。六価クロムはもちろん、三価クロムも一切使用せず防錆性能を維持させることに成功しました。傷付きなどの耐食性にも優れ、アルミ材や高耐食めっき鋼板になどに対して電食（異種金属接触腐食）を大幅に軽減します。

［各種めっき・クロメートの耐食性］　赤錆なし　白錆なし



2 強度試験

強度確認試験が証明する、確かな性能

「テックワン」の耐久性は、1995年の阪神淡路大震災を忠実に再現した三次元実大振動試験によって検証されています（2004年12月7日 於：独立行政法人 土木研究所）。また、性能評価機関に準じた試験内容【「在来軸組工法住宅の許容応力度設計」（公財）日本住宅・木材技術センター企画編集】で各接合部の耐力を検証。その頑強さは公的な試験機関からも公正な評価をいただきました。

柱仕口引張試験

梁仕口せん断試験

3 柱・梁の断面欠損を抑える

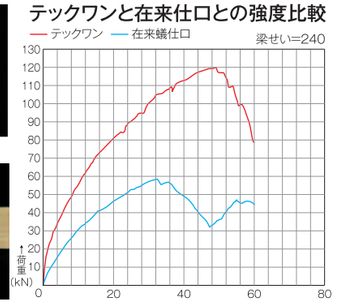
木材の欠損を減らし、強度を高める

木造建築を頑強に組み上げる上で最も重要なポイントは、金物を施工する際に柱や梁の断面欠損を極力減らすことです。しかし在来軸組工法では、柱と梁の仕口加工として、柱に2方向以上の彫り込み（断面欠損）が行われていました。その結果、各部の強度が弱まり、木造建築の揺れへの脆さが露呈したのです。テックワンを使用した場合、取り付け用ボルト穴（12mm）の加工だけで済むため、断面欠損を最小限に抑えることが可能です。

通し柱と金物取り付け用ボルト穴（例：TH-24）

通し柱と大入れ加工

テックワンと在来仕口との強度比較



4 自由な設計

間取りや木材の仕上げにも、柔軟に対応

テックワンは木造在来軸組工法をベースにした接合金物。従来同様、柔軟な間取りやプランニングの他、構造材の現し仕上げなど、木の質感を自由に表現することができます。さらに、金物が柱や梁の内部に収まり表面に出ないため仕上がりが大変きれいです。

ホールダウンパイプと断熱材

外付けホールダウン金物と断熱材（例：S-HD15）

5 木材加工

プレカット加工により、施工時間を短縮

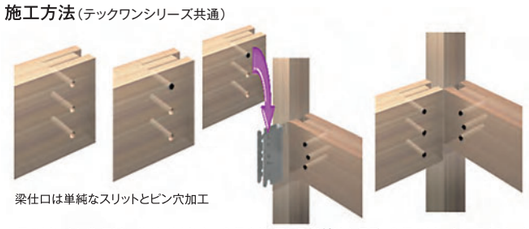
仕口加工は、金物が収まるだけの単純な形状だから誰でも簡単に加工可能です。また、タツミの接合金物は、一般に使用されているプレカット加工機の標準仕様にもなっており、これまで不可能とされていた在来軸組工法の完全部材化にも対応しています。

6 ローコスト

簡単・安全・スピード施工でコストを抑制

タツミの持つ金属加工技術と生産実績が、安全でより高いコストパフォーマンスを実現しました。施工が簡単だから、熟練技術は一切不要。作業効率がアップするので工期が無理なく短縮でき、建築費はもとより人件費のコストダウンが図れます。

施工方法（テックワンシリーズ共通）

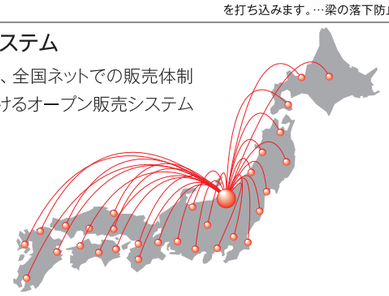


1.梁のピン穴に先行ピン（ドリフトピン）を打ち込みます。…梁の落下防止
2.梁を柱・梁に取り付けた梁受金物に取り付けます。
3.梁のピン穴に固定ピンを打ち込み完了です。

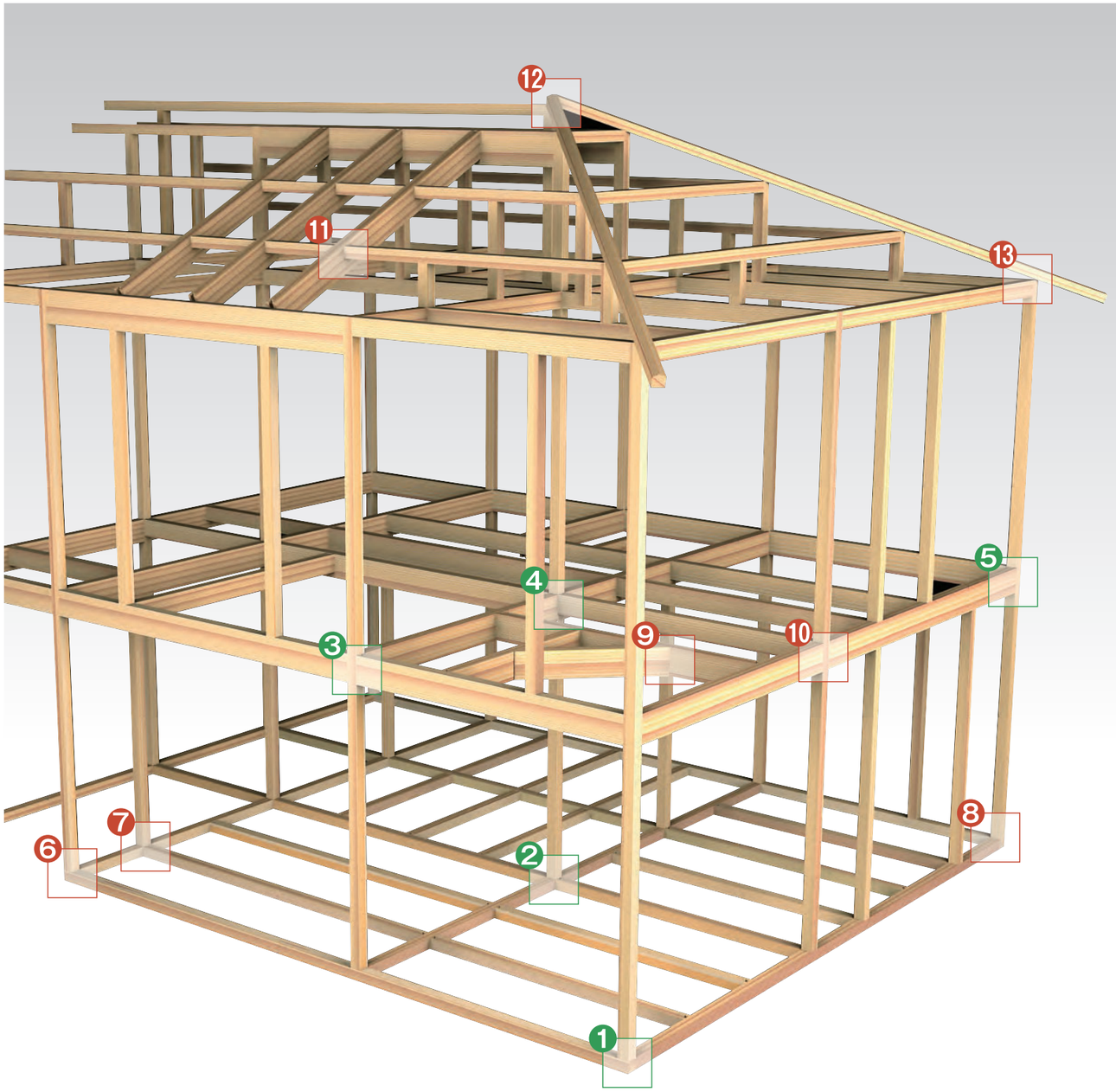
7 市場オープン性

全国ネット対応・オープン販売システム

お客様のご要望に迅速に応えられるよう、全国ネットでの販売体制を整備。いつでもどこでもご利用いただけるオープン販売システムを採用しています。



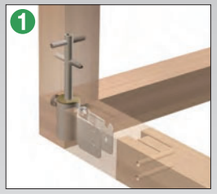
テックワン
Tec-One ［使用例］

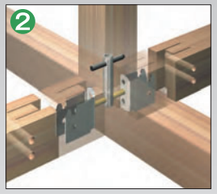


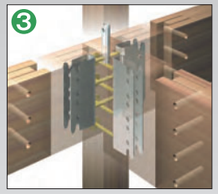
※金物使用例のため、実際の取り付け位置と異なる場合があります。
※正しい取り付け位置については、平成12年国土交通省告示第1460号に則った金物を適正に配置してお使いください。

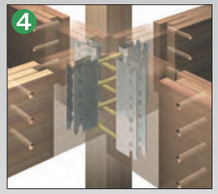
Tec-One P3 テックワンピースリー

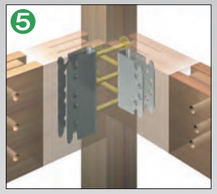
詳細は14･15ページ参照


1 TH-10


2 TH-10

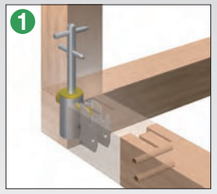

3 TH-24･TH-33

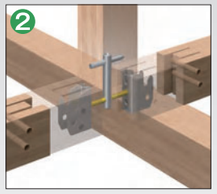

4 TH-24･TH-33

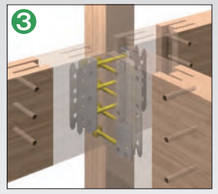

5 TH-18･TH-24

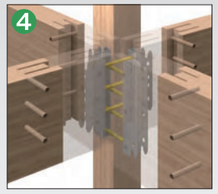
Tec-One TCW テックワンティーシーダブリュー

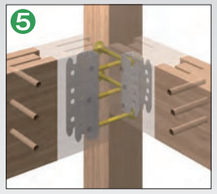
詳細は16･17ページ参照


1 TCW-10


2 TCW-10

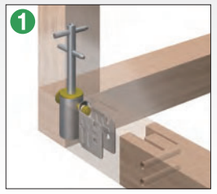

3 TCW-24･TCW-33

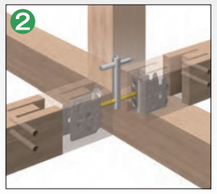

4 TCW-24･TCW-33

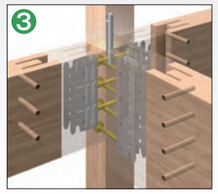

5 TCW-18･TCW-24

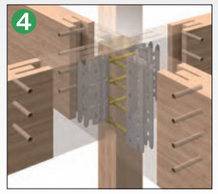
Tec-One 3S テックワンスリーエス

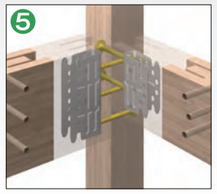
詳細は18･19ページ参照


1 TL-10


2 TL-10


3 TL-24･TL-33


4 TL-24･TL-33

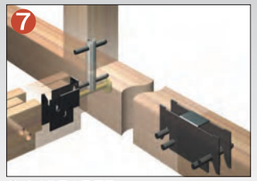

5 TL-18･TL-24

テックワン共有金物の各部の納まり

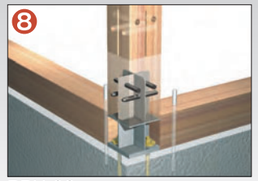
ホールダウンワッシャー
詳細は37ページ参照

6 HDW
土台の浮き上がりを防ぐ際に使用

土台継手金物･バリアフリー対応金物
詳細は土台継手金物･バリアフリー34ページ参照


7 GJ-10Ⅱ+BFⅡ
土台の継手、和室の床組を48mm程度下げる際に使用

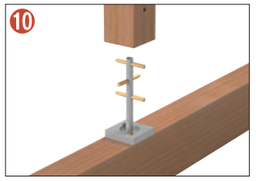
柱脚金物
詳細は25ページ参照


8 PBH-63
高耐力を必要とする柱脚部の接合部に使用

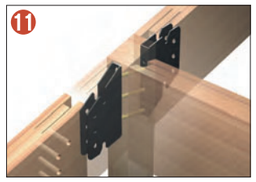
水平斜梁金物
詳細は31ページ参照

9 BAP
斜めに取り付く梁に使用

柱頭柱脚金物
詳細は28ページ参照


10 HPB
高耐力を必要とする柱や梁の接合部に使用

登梁受金物
詳細は30ページ参照


11 GUD
4寸～10寸勾配の登梁の接合部に使用

隅木受金物
詳細は33ページ参照

12 TP
隅木･谷木が取り付く柱や小屋、梁の接合部に使用

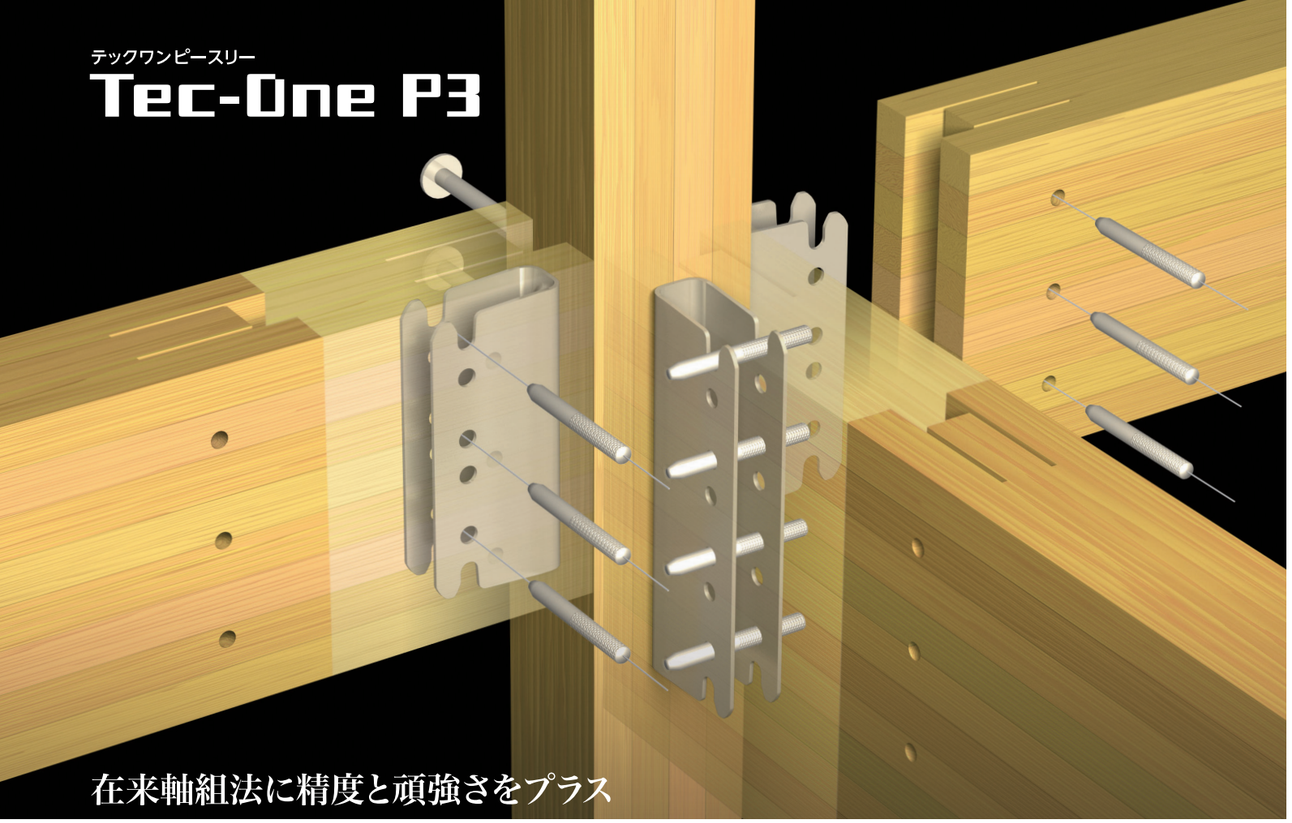
隅木受金物
詳細は33ページ参照

13 KP
隅木･谷木が取り付く柱や小屋、梁の接合部に使用

評定書、技術資料、試験成績表などは 株式会社タツミ 検索 www.tatsumi-web.com ▶▶▶「ダウンロード」をご覧ください。

テックワンピースリー

Tec-One P3



在来軸組法に精度と頑強さをプラス

法隆寺の五重塔や金閣寺などに代表される歴史的建造物の殆どは木で作られています。これは、補修がしやすいという理由の他、室内の調湿や断熱効果など、木の持つ性質が日本の気候・風土に最も適しているためです。「テックワンP3」は、この在来軸組工法に精度と頑強さをプラス。より安全でハイレベルな施工を可能にするべく、簡便で合理的な施工システムを構築することに成功しました。お客様から寄せられた「組み立てていく最中に実感する」という声は、私たちの誇りであり信頼の証なのです。

TH-09
対応梁成：90mm

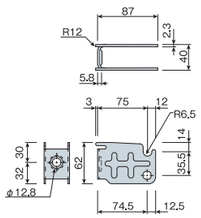
TH-10
対応梁成：105～150mm

TH-18
対応梁成：180～210mm

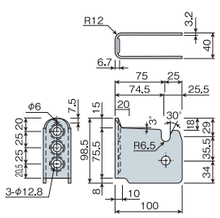
TH-24
対応梁成：240～300mm

TH-33
対応梁成：330～420mm

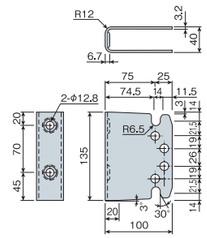
■寸法図



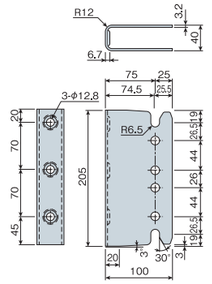
TH-09



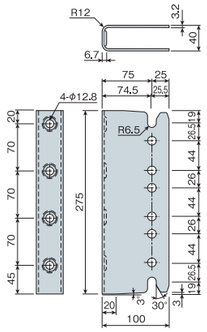
TH-10



TH-18



TH-24



TH-33　※指示無き穴径はφ13

梁受金物（テックワンP3）TH

性能認定金物

用　途

- 構造部材（柱材や横架材など）を接合する際に使用します。

特　長

- ボルトとドリフトピンによる単純な組み合わせで、強い接合部が実現可能です。
- 角部には丸みをつけて安全性に配慮しています。
- 背板の折り曲げをR処理する事でボルトの締め過ぎによる金物変形を少なくしています。
- 金物出幅が100mmとコンパクトになっています。
- 多様な樹種での性能確認試験を実施しています。（各耐力値は、技術資料等参照）

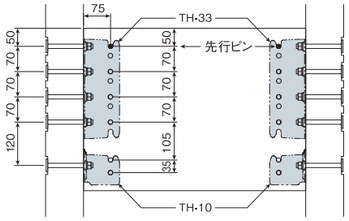
施工方法

①ボルトにて柱材や横架材に金物を取り付けます。
②横架材の仕口には予め所定の位置にドリフトピンを打ち込んでおきます。（先行ピン）※1
③横架材を落とし込んだ後、残りのドリフトピンを打ち込んで固定します。

- 金物2個使いの対応梁成
  TH-33+TH-10／対応梁成：450～480※2
  TH-33+TH-18／対応梁成：510～540※2
  TH-33+TH-24／対応梁成：570～630※2
  TH-33+TH-33／対応梁成：660～720

※1 先行ピンを正しく打ち込む事により、横架材を落とし込む際の落下防止になります。
※2 金物2個使いは必ずTH-33が上になるように納めてください。（配置寸法は下図参照）

梁成：450／480mm（TH-33+TH-10）



サイズ	TH-09：87×40×62mm　TH-10：100×40×98.5mm　TH-18：100×40×135mm TH-24：100×40×205mm　TH-33：100×40×275mm
材　質	新溶融めっき鋼板
承　認	（公財）日本住宅・木材技術センター 性能認定金物　TH-10：SB2-26A03-01 TH-18：SB2-26A03-02　TH-24：SB2-26A03-03　TH-33：SB2-26A03-04
梱　包	TH-09：50個／ケース　TH-10：30個／ケース　TH-18：20個／ケース TH-24：12個／ケース　TH-33：10個／ケース

使用接合具

		TH-09	TH-10	TH-18	TH-24	TH-33
柱　側	M12 中ボルト（別売品）	1本	1本	2本	3本	4本
横架材側	ドリフトピン（別売品）	2本	2本	3本	3本	4本

耐　力　柱ー梁　　スプルース集成材

	TH-10	TH-18	TH-24	TH-33
短期基準せん断接合耐力（kN）	8.0	24.3	34.9	41.5
短期基準（逆）せん断接合耐力（kN）	9.2	20.9	23.8	41.7
短期基準引張耐力（kN）	13.6	27.1	34.8	40.3
存在接合部倍率（引張耐力÷5.3kN）	2.5	5.1	6.5	7.6

耐　力　梁ー梁　　スプルース集成材

	TH-10	TH-18	TH-24	TH-33
短期基準せん断耐力（kN）	7.6	15.3	22.7	39.4
短期基準（逆）せん断耐力（kN）	6.9	16.4	22.1	32.4
短期基準引張耐力（kN）	10.3	30.6	40.7	57.6
存在接合部倍率（引張耐力÷5.3kN）	1.9	5.7	7.6	10.8

表中の数値は（公財）日本住宅・木材技術センター／ハウスプラス確認検査(株)試験データ等による。
※試験時の使用木材　柱　材／寸法：105×105 樹種：スプルース同一等級構造用集成材 E95-F315
横架材／寸法：105×105～330 樹種：スプルース対称異等級構造用集成材 E105-F300

2段使い 耐力　柱ー梁

製品名	短期基準せん断接合耐力（kN）	試験時使用樹種
TH-33+TH-10	46.0	柱：スギKD材　梁：スギ集成材
TH-33+TH-18	59.8	
TH-33+TH-24	65.7	
TH-33+TH-33	75.0	柱：スプルース集成材　梁：スギ集成材

2段使い 耐力　梁ー梁　　スギ集成材

製品名	短期基準せん断接合耐力（kN）	試験時使用樹種
TH-33+TH-10	52.9	梁：スギ集成材
TH-33+TH-18	65.8	
TH-33+TH-24	77.4	
TH-33+TH-33	80.6	

表中の数値はハウスプラス確認検査(株)試験データによる。
※試験時の使用木材　柱　材／寸法：105×105 樹種：スギKD材　無等級
（※梁せい660㎜）120×120 樹種：スプルース同一等級構造用集成材 E95-F315
横架材／寸法：105×450～660 樹種：スギ対称異等級構造用集成材 E65-F225

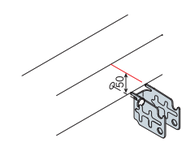
小梁90角耐力

製品名	短期基準せん断接合耐力（kN）	試験時使用樹種
TH-09	5.5	梁：スギKD材
TH-10	6.0	

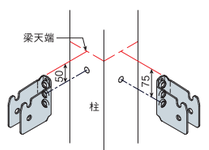
表中の数値はハウスプラス確認検査(株)試験データ等による。
※試験時の使用木材　土台材／寸法：105×105　樹種：スギKD材
大引材／寸法：90×90　樹種：スギKD材

■荷重期間における基準耐力の算出について
短期基準耐力：1.0とした場合、中短期：0.8、中長期：0.715、長期：0.55
出典(一社)日本建築学会木質構造設計規準・同解説ー許容応力度・許容耐力設計法ー

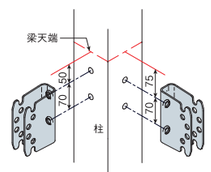
■納まり図



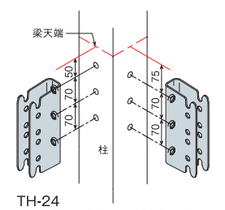
TH-09
※金物天端は梁天端より20.5mm下がり



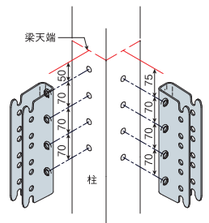
TH-10
※金物天端は梁天端より5.5mm下がり



TH-18
※金物天端は梁天端より30.5mm下がり



TH-24
※金物天端は梁天端より30.5mm下がり



TH-33
※金物天端は梁天端より30.5mm下がり

テックワンティーシーダブリュー

Tec-One TCW

テックワンの基本性能を維持したコンパクトモデル

コンパクトでありながらより高強度を実現。日本製鉄(株)と(株)タツミの共同開発商品です。

日本製鉄(株)が手掛けるスチールハウスのノウハウを最大限に活用し、従来のテックワンに比べてコンパクトでありながら耐力がアップした新しい金物を実現し、より広範囲な木造建築物への適用を可能にしました。これまでの解析や試験から、最も発生応力が生じる箇所はボルト穴がある背板部で、それに比較してドリフトピンがかかる羽部は応力が低いことがわかりました。羽部を薄くすることで接合部における重要部分と過剰部分の最適化が図られ、更に特殊なカシメ技術により2つの金物を接合する事で金物の耐力アップとコンパクト化が同時に実現可能となりました。

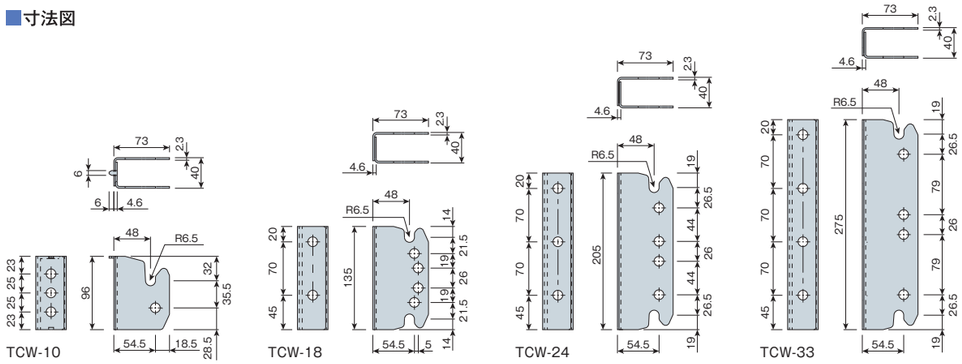
TCW-10
対応梁成：105~150mm

TCW-18
対応梁成：180~210mm

TCW-24
対応梁成：240~300mm

TCW-33
対応梁成：330~420mm

■寸法図



※指示無き孔径はφ13

用　途

- 構造部材(柱材や横架材など)を接合する際に使用します。

特　長

- ボルトとドリフトピンによる単純な組み合わせで、強い接合部が実現可能です。
- テックワンP3より出幅を抑えコンパクトにし、板厚を薄くすることで最大40%軽量化。
- L型金物をボルト接合面で重ね合わせることで、板厚を最適化して高い耐力を実現しました。

施工方法

①ボルトにて柱材や横架材に金物を取り付けます。
②横架材の仕口には予め所定の位置にドリフトピンを打ち込んでおきます。(先行ピン)※1
③横架材を落とし込んだ後、残りのドリフトピンを打ち込んで固定します。
※1 先行ピンを正しく打ち込む事により、横架材を落とし込む際の落下防止になります。

サイズ	TCW-10：73×40×96mm　TCW-18：73×40×135mm　TCW-24：73×40×205mm TCW-33：73×40×275mm
材　質	新溶融めっき鋼板
梱　包	TCW-10：30個／ケース　TCW-18：20個／ケース　TCW-24：12個／ケース TCW-33：10個／ケース

使用接合具

		TCW-10	TCW-18	TCW-24	TCW-33
柱　側	M12 中ボルト(別売品)	1本	2本	3本	4本
横架材側	ドリフトピン(別売品)	2本	3本	3本	3本

耐　力　柱ー梁　　スプルース集成材

	TCW-10	TCW-18	TCW-24	TCW-33
短期基準せん断耐力 (kN)	8.1	26.4	39.6	48.0
短期基準(逆)せん断耐力 (kN)	7.3	17.5	22.5	25.8
短期基準引張耐力 (kN)	12.7	23.5	24.3	33.4
存在接合部倍率(引張耐力÷5.3kN)	2.3	4.4	4.5	6.3

耐　力　梁ー梁　　スプルース集成材

	TCW-10	TCW-18	TCW-24	TCW-33
短期基準せん断耐力 (kN)	8.0	16.9	29.5	36.4
短期基準(逆)せん断耐力 (kN)	7.8	15.6	24.7	28.9
短期基準引張耐力 (kN)	12.5	27.5	30.0	30.7
存在接合部倍率(引張耐力÷5.3kN)	2.3	5.1	5.6	5.7

表中の数値は(一財)日本建築センター性能評定による。
※試験時に使用木材
　柱　材／寸法：105×105 樹種：スプルース同一等級構成構造用集成材 E95-F315
　横架材／寸法：105×105~330 樹種：スプルース対称異等級構成構造用集成材 E105-F300

耐　力　柱ー梁　　スギ集成材

	TCW-10	TCW-18	TCW-24	TCW-33
短期基準せん断接合耐力 (kN)	6.0	22.8	31.3	40.5
短期基準(逆)せん断接合耐力 (kN)	5.7	15.7	18.0	17.8
短期基準引張耐力 (kN)	10.4	22.0	25.4	32.3
存在接合部倍率(引張耐力÷5.3kN)	1.9	4.1	4.7	6.0

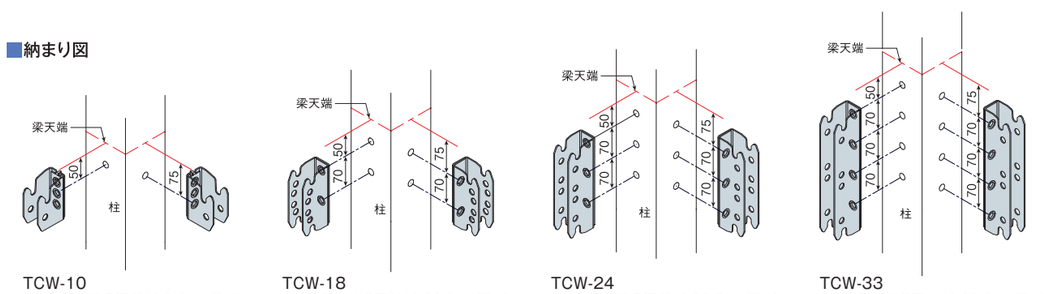
耐　力　梁ー梁　　スギ集成材

	TCW-10	TCW-18	TCW-24	TCW-33
短期基準せん断接合耐力 (kN)	6.3	15.8	25.5	34.3
短期基準引張耐力 (kN)	13.1	20.1	25.8	29.1
存在接合部倍率(引張耐力÷5.3kN)	2.4	3.7	4.8	5.4

表中の数値は(株)タツミ社内試験データによる。
※試験時に使用木材
　柱　材／寸法：105×105 樹種：スギ同一等級構成構造用集成材 E65-F255
　横架材／寸法：105×105~330 樹種：スギ対称異等級構成構造用集成材 E65-F225

■荷重期間における基準耐力の算出について
　短期基準耐力：1.0とした場合、中短期：0.8、中長期：0.715、長期：0.55
　出典(一社)日本建築学会木質構造設計規準・同解説ー許容応力度・許容耐力設計法ー

■納まり図



TCW-10
※金物天端は梁天端より2.5mm下がり

TCW-18
※金物天端は梁天端より30.5mm下がり

TCW-24
※金物天端は梁天端より30.5mm下がり

TCW-33
※金物天端は梁天端より30.5mm下がり

テックワンスリーエス

Tec-One 3S

テックワンと施工と加工を同じにしたコストパフォーマンスモデル

歴史的建造物の殆どは木で作られています。補修のしやすさと、室内の調湿や断熱効果など、木の性質が日本の気候・風土に適しているためです。「テックワン」は、この在来軸組工法に精度と頑強さをプラスし、合理的な施工システムを構築することに成功しました。3Sシリーズでは、さらに今までにないコストパフォーマンスも実現しました。

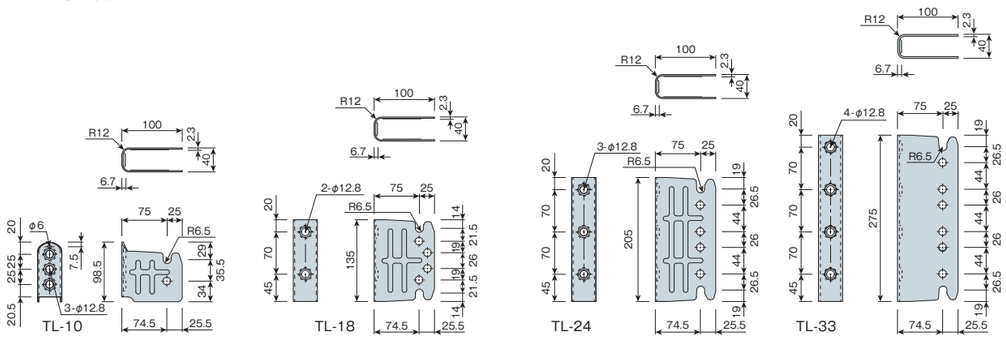
TL-10
対応梁成：105～150mm

TL-18
対応梁成：180～210mm

TL-24
対応梁成：240～300mm

TL-33
対応梁成：330～420mm

■寸法図



梁受金物（テックワン 3S）TL

用　途

- 構造部材（柱材や横架材など）を接合する際に使用します。

特　長

- ボルトとドリフトピンによる単純な組み合わせで、強い接合部が実現可能です。
- テックワンP3と同じ加工寸法、施工方法で軽量化、低コスト化が可能です。
- 梁成330以上は、TH-33と同じ金物を運用することで高い耐力を保持しています。

施工方法

①ボルトにて柱材や横架材に金物を取り付けます。
②横架材の仕口には予め所定の位置にドリフトピンを打ち込んでおきます。（先行ピン）※1
③横架材を落とし込んだ後、残りのドリフトピンを打ち込んで固定します。
※1 先行ピンを正しく打ち込む事により、横架材を落とし込む際の落下防止になります。

サイズ	TL-10：100×40×98.5mm	TL-18：100×40×135mm	TL-24：100×40×205mm
	TL-33：100×40×275mm		
材　質	JIS G3302 SGHC		
表面処理	Z27		
梱　包	TL-10：30個／ケース	TL-18：20個／ケース	TL-24：12個／ケース
	TL-33：10個／ケース		

使用接合具

		TL-10	TL-18	TL-24	TL-33
柱　側	M12 中ボルト（別売品）	1本	2本	3本	4本
横架材側	ドリフトピン（別売品）	2本	3本	3本	4本

耐　力　柱ー梁　　スプルース集成材

	TL-10	TL-18	TL-24	TL-33
短期基準せん断耐力（kN）	7.4	16.9	26.8	41.5
短期基準（逆）せん断耐力（kN）	7.9	15.9	21.7	41.7
短期基準引張耐力（kN）	11.7	21.4	27.2	40.3
存在接合部倍率（引張耐力÷5.3kN）	2.2	4.0	5.1	7.6

耐　力　梁ー梁　　スプルース集成材

	TL-10	TL-18	TL-24	TL-33
短期基準せん断耐力（kN）	6.8	15.2	24.7	39.4
短期基準（逆）せん断耐力（kN）	6.8	14.7	22.8	32.4
短期基準引張耐力（kN）	11.5	20.2	32.0	57.6
存在接合部倍率（引張耐力÷5.3kN）	2.1	3.8	6.0	10.8

表中の数値はハウスプラス確認検査(株)及びタツミ社内試験データによる。
※試験時に使用木材
柱　材／寸法：105×105 樹種：スプルース同一等級構成構造用集成材 E95-F315
横架材／寸法：105×105～330 樹種：スプルース対称異等級構成構造用集成材 E105-F300

耐　力　柱ー梁　　スギ集成材

	TL-10	TL-18	TL-24	TL-33
短期基準せん断接合耐力 (kN)	5.4(5.1)	12.6(11.9)	29.6(28.1)	37.3
短期基準（逆）せん断接合耐力 (kN)	8.3	18.0	18.4	38.1
短期基準引張耐力 (kN)	11.3(10.7)	22.3(21.1)	26.4(25.0)	22.3
存在接合部倍率（引張耐力÷5.3kN）	2.1	4.2	4.9	4.2

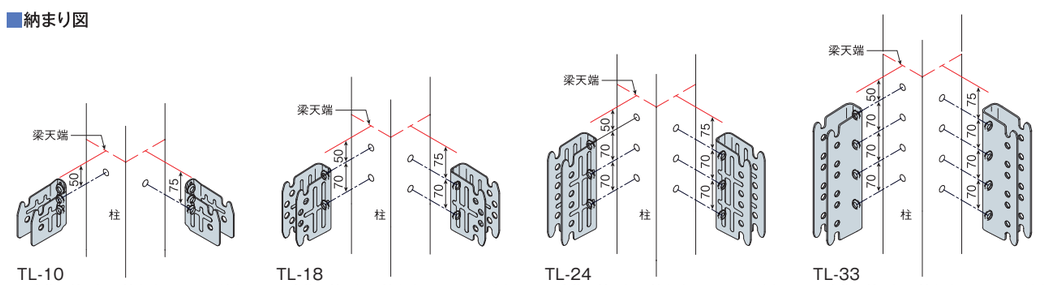
耐　力　梁ー梁　　スギ集成材

	TL-10	TL-18	TL-24	TL-33
短期基準せん断接合耐力 (kN)	5.7(5.4)	13.6(12.9)	23.1(21.9)	31.0
短期基準（逆）せん断接合耐力 (kN)	7.9	17.2	15.5	35.0
短期基準引張耐力 (kN)	12.7(12.0)	16.2(15.3)	33.5(31.8)	38.9
存在接合部倍率（引張耐力÷5.3kN）	2.3	3.0	6.3	7.3

表中の数値は日本ERI(株)任意評定／(一財)建材試験センター試験データによる。
(　)内の数値はEIR(株)任意評定による短期許容耐力を示す(低減係数0.95)
※試験時に使用木材
柱　材／寸法：105×105 樹種：スギ同一等級構成構造用集成材 E65-F255
横架材／寸法：105×105～330 樹種：スギ対称異等級構成構造用集成材 E65-F225

■ 荷重期間における基準耐力の算出について
短期基準耐力：1.0とした場合、中短期：0.8、中長期：0.715、長期：0.55
出典(一社)日本建築学会木質構造設計規準・同解説ー許容応力度・許容耐力設計法ー

■納まり図



TL-10
※金物天端は梁天端より5.5mm下がり

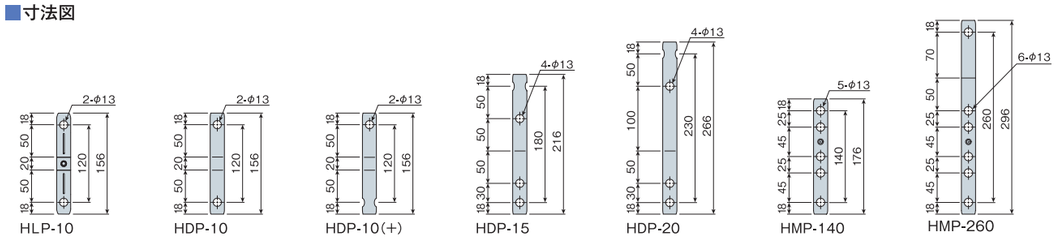
TL-18
※金物天端は梁天端より30.5mm下がり

TL-24
※金物天端は梁天端より30.5mm下がり

TL-33
※金物天端は梁天端より30.5mm下がり

ホールダウンパイプ（HDPタイプ）加工φ22

■寸法図



用　途

- 柱材と横架材に対して従来のホゾ加工と引寄せ金物の代わりに使用します。

特　長

- ドリフトピンを使用して簡単に緊結できます。
- ボルトを使用して梁受金物とも取り合います。
- GPタイプよりも高い引抜耐力があります。

施工方法

①ドリフトピン（場合によってはボルト）にて横架材に金物を取り付けます。
②柱頭の場合は、柱頭に横架材を落とし込んだ後、ドリフトピンを打ち込んで固定します。
③柱脚の場合は、横架材に柱を立てて、柱脚にドリフトピンを打ち込んで固定します。

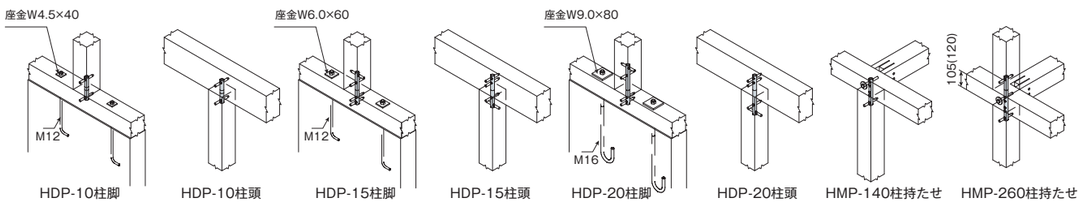
サイズ	HLP-10：φ21.7×156mm　HDP-10：φ21.7×156mm　HDP-10(+)：φ21.7×156mm
	HDP-15：φ21.7×216mm　HDP-20：φ21.7×266mm
	HMP-140：φ21.7×176mm　HMP-260：φ21.7×296mm
材　質	HLP-10：NSDHC　HDP-15・HDP-20：JIS G3444 STK500
	HDP-10・HDP-10(+)・HMP-140・HMP-260：STK500
表面処理	新溶融めっき
梱　包	HLP-10：60本／ケース　HDP-10：60本／ケース　HDP-10(+)：60本／ケース
	HDP-15：20本／ケース　HDP-20：20本／ケース
	HMP-140：30本／ケース　HMP-260：20本／ケース

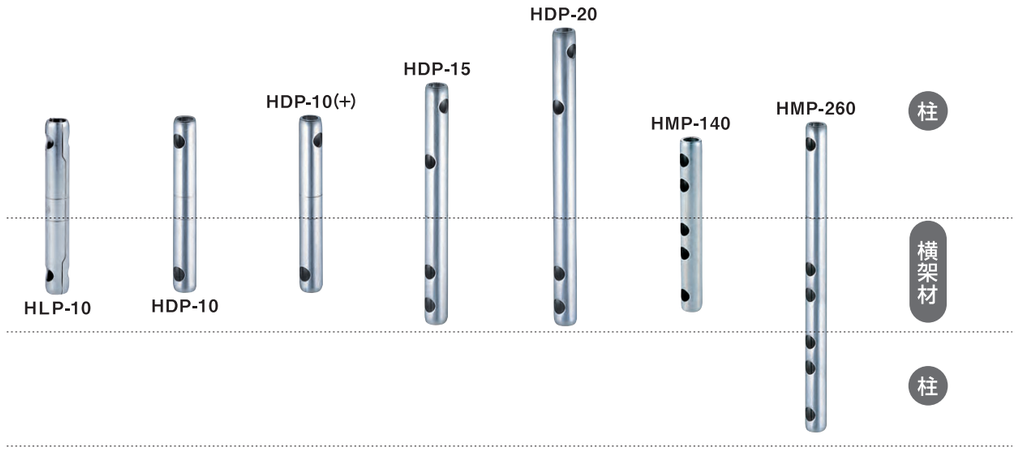
使用接合具

		HLP-10	HDP-10	HDP-10(+)	HDP-15	HDP-20
柱　側	ドリフトピン（別売品）	1本	1本	1本	2本	2本
横架材側	ドリフトピンまたはM12中ボルト（別売品）	1本	1本	1本	2本	2本

※HMP-140：ドリフトピンおよびM12中ボルト（納まりは技術資料参照）
※HMP-260：ドリフトピンおよびM12中ボルト（納まりは技術資料参照）

■納まり図





耐　力

柱脚・柱頭部

製品名	接合形態		短期基準耐力(kN) 引張	短期基準耐力(kN) せん断	試験時使用樹種
HLP-10	柱脚	中柱	10.5	6.7	柱：スギKD材 E50 横架材：スギKD材 E50
	土台部	隅柱	6.5	5.1	
		隅角部	8.7		
	柱頭	中柱	10.5	6.7	
HDP-10	柱脚	中柱	10.0	7.2	柱：スギKD材 E50 横架材：スギKD材 E50
	土台部	隅柱	5.2	5.6	
		隅角部	9.2		
	柱頭	中柱	10.0	7.2	
HDP-10(+)	柱脚	中柱	10.0	7.2	
	土台部	隅柱	5.2	5.6	
		隅角部	9.2		
	柱頭	中柱	10.0	7.2	
HDP-15	柱脚	中柱	17.4	6.9	柱：スギKD材 E50 横架材：スギKD材 E50
	柱頭				
HDP-20	柱脚	中柱	25.5	6.3	柱：スギKD材 E50 横架材：スギKD材 E50
	土台部	隅柱	10.9	4.0	
		隅角部	17.6		
	柱頭	中柱	25.5	6.3	
HMP-140	柱頭	中柱	6.2	7.8 HDP-10に準ずる※1	柱：スギKD材 E50　横架材：スギ対称異等級構成集成材 E65-F225　梁H=150
HMP-260	梁貫通 H=105/120	中柱	4.4	7.8 HDP-10に準ずる※1	柱：スギKD材 E50　横架材：スギKD材 E50　梁H=120

表中の数値は（一財）建材試験センター／ハウスプラス確認検査(株)試験データ及び(株)タツミ社内試験データによる。
※1. 試験時使用材寸法 柱材：□105mm 横架材：幅=105mm せい=105mm（梁H記載あるものは除く）
※2. N値に換算する場合は耐力値÷5.3（1960N×2.7m）を基本に算出

告示第1460号第二号表三（HDP）柱頭柱脚中柱

告示表3	N値	柱・横架材（スギKD材） HLP-10	HDP-10	HDP-10(+)	HDP-15	HDP-20
（い）	0	○	○	○	○	○
（ろ）	0.65					
（は）	1.0					
（に）	1.4					
（ほ）	1.6					
（へ）	1.8					
（と）	2.8	×	×	×	×	×
（ち）	3.7					
（り）	4.7					
（ぬ）	5.6					

告示第1460号第二号表三（HDP）土台隅柱

告示表3	N値	柱・横架材（スギKD材） HLP-10	HDP-10	HDP-10(+)	HDP-15	HDP-20
（い）	0	○	○	○		○
（ろ）	0.65					
（は）	1.0					
（に）	1.4	×	×	×		
（ほ）	1.6					
（へ）	1.8					
（と）	2.8					
（ち）	3.7					×
（り）	4.7					
（ぬ）	5.6					

※ホールダウンワッシャーの使用を推奨致します。

告示第1460号第二号表三（HDP）土台隅角柱

告示表3	N値	柱・横架材（スギKD材） HLP-10	HDP-10	HDP-10(+)	HDP-15	HDP-20
（い）	0	○	○	○		○
（ろ）	0.65					
（は）	1.0					
（に）	1.4					
（ほ）	1.6					
（へ）	1.8	×	×	×		
（と）	2.8					
（ち）	3.7					×
（り）	4.7					
（ぬ）	5.6					

※ホールダウンワッシャーの使用を推奨致します。

告示第1460号第二号表三（他パイプ）柱頭

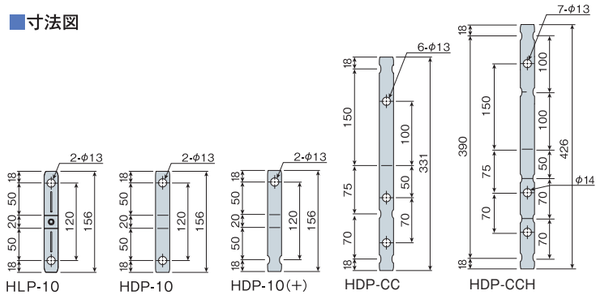
告示表3	N値	柱(スギKD材)・横架材(スギ集成材) HMP-140	柱(スギKD材)・横架材(スギKD材) HMP-260
（い）	0	○	○
（ろ）	0.65		
（は）	1.0		
（に）	1.4	×	×
（ほ）	1.6		
（へ）	1.8		
（と）	2.8		
（ち）	3.7		
（り）	4.7		
（ぬ）	5.6		

評定書、技術資料、試験成績表などは 株式会社タツミ 検索 www.tatsumi-web.com ▶▶▶「ダウンロード」をご覧ください。

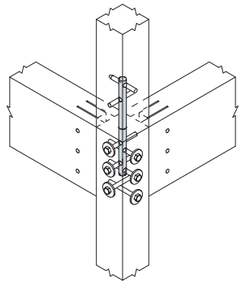
柱継パイプ（HDPタイプ）加工φ22

HLP-10　HDP-10　HDP-10(+)　HDP-CC　HDP-CCH

■寸法図



■納まり図



用　途

- 柱継部の接合に使用します。

特　長

- ドリフトピンを使用して簡単に緊結できます。
- ボルトを使用して梁受金物とも取り合います。

施工方法

①ドリフトピン（場合によってはボルト）にて下階の勝ち柱の柱頭に金物を取り付けます。
②上階の柱を立てて、柱脚にドリフトピンを打ち込んで固定します。

告示第1460号第二号表三（柱継）

告示表3	N 値	柱（スギKD材） HLP-10	HDP-10	HDP-10(+)	HDP-CC	HDP-CCH
（い）	0	○	○	○	○	○
（ろ）	0.65					
（は）	1.0					
（に）	1.4					
（ほ）	1.6					
（へ）	1.8					
（と）	2.8	×	×	×		
（ち）	3.7					
（り）	4.7				×	
（ぬ）	5.6					

サイズ	HLP-10：φ21.7×156mm　HDP-10：φ21.7×156mm　HDP-10(+)：φ21.7×156mm				
	HDP-CC：φ21.7×331mm　HDP-CCH：φ21.6×426mm				
材　質	HLP-10：NSDHC　HDP-10・HDP-10(+)：JIS G3444 STK500				
	HDP-CC：STK540　HDP-CCH：JIS G4051 S40C				
表面処理	新溶融めっき（HDP-10・HLP-10・HDP-CC・HLP-10(+)）ダクロタイズド処理（HDP-CCH）				
梱　包	HLP-10：60本／ケース　HDP-10：60本／ケース　HDP-10(+)：60本／ケース				
	HDP-CC：30本／ケース　HDP-CCH：10本／ケース				

使用接合具

		HLP-10	HDP-10	HDP-10(+)	HDP-CC	HDP-CCH
上階柱側	ドリフトピン（別売品）	1本	1本	1本	2本	3本
下階柱側	M12中ボルトまたはドリフトピン	1本	1本	1本	4本	5本

耐　力

柱脚・柱頭部

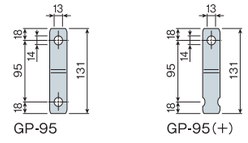
製品名	接合形態	短期基準耐力(kN) 引張	せん断	試験時使用樹種
HLP-10	柱-柱 継ぎ	10.1	4.1	柱：スギKD材 E50
HDP-10		11.6	5.2	柱：スギKD材 無等級
HDP-10(+)		11.6	5.2	柱：スギKD材 無等級
HDP-CC		24.5	3.6	柱：スギKD材 無等級
		30.0		柱：スギ同一等級構成集成材 E65-F255
		32.1		柱：スプルース同一等級構成集成材 E95-F315
HDP-CCH		35.2	3.1	柱：スギKD材 無等級
		41.4		柱：スプルース同一等級構成集成材 E95-F315

表中の数値は、ハウスプラス確認検査（株）／（株）タツミ社内試験データ及び(一財)日本建築センター性能評定による。
※1. 試験時使用材寸法 柱材：□105mm
※2. N値に換算する場合は耐力値÷5.3（1960N×2.7m）を基本に算出

ホゾパイプ（GPタイプ）加工φ27

GP-95　GP-95(+)

■寸法図



用　途

- 柱材と横架材に対して従来のホゾ加工と引寄せ金物の代わりに使用します。

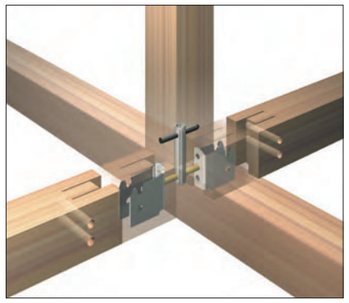
特　長

- ドリフトピンを使用して簡単に緊結できます。
- ボルトを使用して梁受金物とも取り合います。

施工方法

①ドリフトピン（場合によってはボルト）にて横架材に金物を取り付けます。
②柱を立てて、柱脚にドリフトピンを打ち込んで固定します。
③上梁を落とし込んで、柱頭のドリフトピンを打ち込んで固定します。

■納まりイメージ



サイズ	GP-95：φ26.5×131mm　GP-95(+)：φ26.5×131mm	
材　質	JIS G3444 STK400	
表面処理	新溶融めっき	
梱　包	GP-95：50本／ケース　GP-95(+)：50本／ケース	

使用接合具

		GP-95	GP-95(+)
柱　側	ドリフトピン（別売品）	1本	1本
横架材側	ドリフトピンまたはM12中ボルト（別売品）	1本	1本

耐　力

柱脚・柱頭部

製品名	接合形態		短期基準耐力(kN) 引張	せん断	試験時使用樹種
GP-95	柱脚	中柱	9.8	6.2	柱：スギKD材 E50
	土台部	隅柱	5.3	4.7	横架材：スギKD材 E50
		隅角部	7.5		
	柱頭	中柱	9.8	6.2	
GP-95(+)	柱脚	中柱	9.8	6.2	
	土台部	隅柱	5.3	4.7	
		隅角部	7.5		
	柱頭	中柱	9.8	6.2	

表中の数値はハウスプラス確認検査（株）試験データによる。
※1. 試験時使用材寸法 柱材：□105mm 横架材：幅=105mm せい=105mm（梁H記載あるものは除く）
※2. N値に換算する場合は耐力値÷5.3（1960N×2.7m）を基本に算出

告示第1460号第二号表三（GP）柱頭柱脚中柱

告示表3	N 値	柱・横架材（スギKD材） GP-95	GP-95(+)
（い）	0	○	○
（ろ）	0.65		
（は）	1.0		
（に）	1.4		
（ほ）	1.6		
（へ）	1.8	×	×
（と）	2.8		
（ち）	3.7		
（り）	4.7		
（ぬ）	5.6		

告示第1460号第二号表三（GP）土台隅柱

告示表3	N 値	柱・横架材（スギKD材） GP-95	GP-95(+)
（い）	0	○	○
（ろ）	0.65		
（は）	1.0		
（に）	1.4	×	×
（ほ）	1.6		
（へ）	1.8		
（と）	2.8		
（ち）	3.7		
（り）	4.7		
（ぬ）	5.6		

※ホールダウンワッシャーを使用してください。

告示第1460号第二号表三（GP）土台隅角柱

告示表3	N 値	柱・横架材（スギKD材） GP-95	GP-95(+)
（い）	0	○	○
（ろ）	0.65		
（は）	1.0		
（に）	1.4	×	×
（ほ）	1.6		
（へ）	1.8		
（と）	2.8		
（ち）	3.7		
（り）	4.7		
（ぬ）	5.6		

※ホールダウンワッシャーを使用してください。

Tec-One（テックワン）

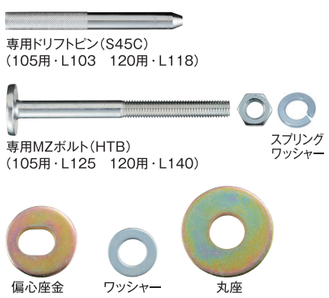
アンカーボルト直結パイプ式柱脚金物 HDCⅢ

アンカーボルト直結型金物（1階柱脚金物）

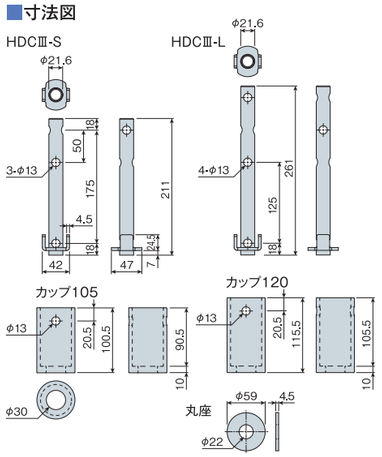
HDCⅢ-S（105・120用）

HDCⅢ-L（105・120用）

●付属品



■寸法図



材　質	JIS G 4051 S40C・JIS G 4051 S45C・JIS G 3101 SS400
表面処理	ノンクロムラスパート・電気亜鉛めっき有色クロメート
付属部品	専用ドリフトピン（S45C）：1本　専用MZボルト（HTB）：1本　偏心座金：1個 ワッシャー：1個　丸座：1個　スプリングワッシャー：1個
梱　包	HDCⅢ-S：5個／ケース　HDCⅢ-L：5個／ケース

使用接合具

		HDCⅢ-S	HDCⅢ-L
柱　側	ドリフトピン（別売品）	2本	3本
土台側	専用ドリフトピンまたは専用高力ボルト（別売品）	1本※1	1本※1
基　礎	アンカーボルトM16（別売品）	1本	1本

※1 土台に対して梁受金物が対面で取付く場合は、別売の専用高力ボルト（38ページ参照）が必要です。

用　途

●土台の内部に納まって、アンカーボルトと直結する金物です。

特　長

●ホールダウンパイプよりも高い引抜耐力があります。
●パイプとカップの接合には専用ドリフトピンまたは専用ボルトを使用します。
●アンカーボルト用ルーズホールは±6mmです。

施工方法

①土台敷き後、カップをアンカーボルトM16に緊結します。
②柱パイプとカップを土台と共に専用ドリフトピンで緊結させます。（梁受金物と共有する場合は専用ボルトを使用します）
③丸座を介して柱を立てて、柱脚にドリフトピンを打ち込んで固定します。（下記図参照）

告示第1460号第二号表三（アンカー直結）

告示表3	N　値	柱（スギKD材） HDCⅢ-S	柱（スギKD材） HDCⅢ-L
（い）	0	○	○
（ろ）	0.65		
（は）	1.0		
（に）	1.4		
（ほ）	1.6		
（へ）	1.8		
（と）	2.8		
（ち）	3.7		
（り）	4.7		
（ぬ）	5.6	×	

告示第1460号第二号表三（アンカー直結）

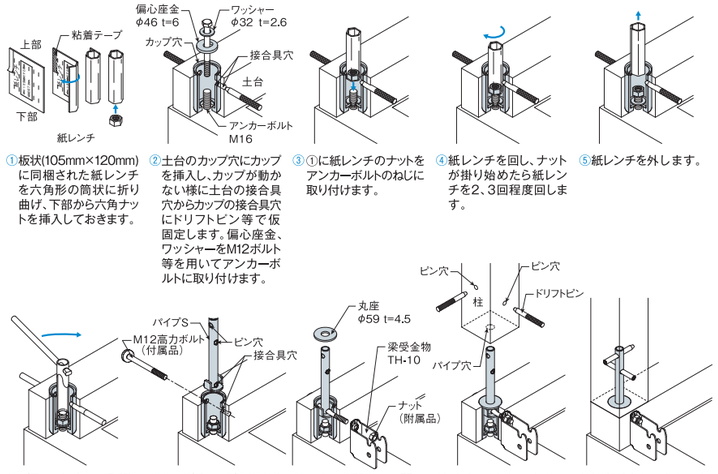
告示表3	N　値	柱（スプルース集成材） HDCⅢ-S	柱（スプルース集成材） HDCⅢ-L
（い）	0	○	○
（ろ）	0.65		
（は）	1.0		
（に）	1.4		
（ほ）	1.6		
（へ）	1.8		
（と）	2.8		
（ち）	3.7		
（り）	4.7		
（ぬ）	5.6	×	

耐　力

製品名	接合形態	短期基準耐力（kN） 引張	せん断	圧縮	試験時使用樹種
HDCⅢ-S	土台部	26.7	3.5	63.7	柱：スギKD材 E50
		24.5			柱：スギ同一等級構成集成材 E65-F255
		28.5	5.6		柱：スプルース同一等級構成集成材 E95-F315
HDCⅢ-L	土台部	31.5	5.0		柱：スギKD材 E50
		37.3			柱：スギ同一等級構成集成材 E65-F255
		39.6	5.5		柱：スプルース同一等級構成集成材 E95-F315

表中の数値はハウスプラス確認検査（株）／（株）タツミ社内試験データによる。
※1. 試験時使用材寸法 柱材：□105mm　横架材：幅=105mm せい=105mm（梁H記載あるものは除く）
※2. アンカーボルトの材料強度等にご注意ください。
※3. N値に換算する場合は耐力値÷5.3（1960N×2.7m）を基本に算出

■施工方法（アンカーボルトM16のナット取り付けに、HDCⅢに同梱された紙レンチを用いた例）

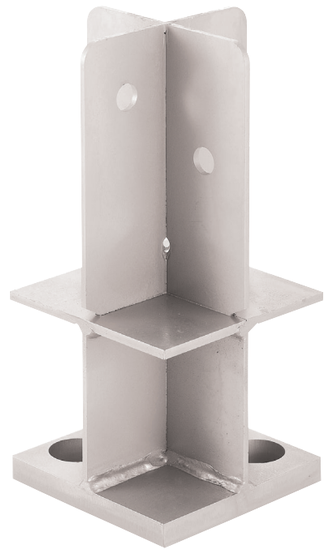


①板状(105mm×120mm)に同梱された紙レンチを六角形の筒状に折り曲げ、下部から六角ナットを挿入しておきます。
②土台のカップ穴にカップを挿入し、カップが動かない様に土台の接合具穴からカップの接合具穴にドリフトピン等で仮固定します。偏心座金、ワッシャーをM12ボルト等を用いてアンカーボルトに取り付けます。
③①に紙レンチのナットをアンカーボルトのねじに取り付けます。
④紙レンチを回し、ナットが掛り始めたら紙レンチを2、3回程度回します。
⑤紙レンチを外します。
⑥プラグレンチなどで締め付けた後、ドリフトピン等を外します。
※ナットの締め付けに電動工具は、使用しないでください。
⑦パイプをカップ上部から挿入しカップとパイプの接合具穴に付属の高力ボルトをTH-10が取りつく方向へ挿入します。
※TH-10と取り合わない場合には、S45Cドリフトピン(付属品)を用います。
⑧土台から突出した高力ボルトにTH-10を取り付け、付属のナットで締め付けます。付属の丸座は、パイプ上部から土台のカップ穴に納めます。
※丸座は、柱を立てる前に必ず取り付けてください。
⑨パイプのピン穴と柱仕口のピン穴の向きを合わせ、柱のパイプ穴へパイプを挿入します。
⑩ドリフトピンをピン穴に打ち込み取り付け完了です。
※ドリフトピンは別途ご用意ください。

Tec-One（テックワン）

高耐力スリット式独立柱脚金物 PBH-63

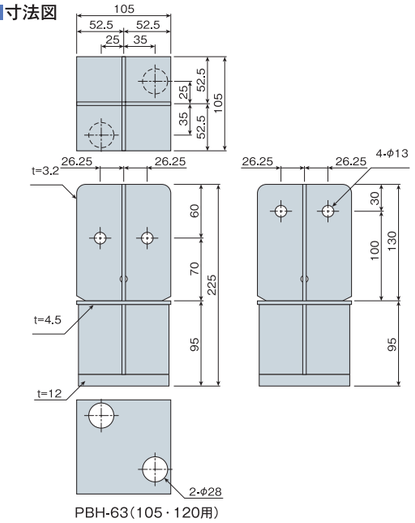
アンカーボルト直結型金物（1階柱脚金物）



PBH-63（105・120用）

●付属品

■寸法図



PBH-63（105・120用）

サイズ	PBH-63（105・120用）：105×105×225mm
材　質	JIS G 3131 SPHC　JIS G 3101 SS400
表面処理	ノンクロムラスパート処理
付属部品	専用ドリフトピン（S45C）：4本　アジャスター座金：2個　ワッシャー：2個
梱　包	1個／ケース

用　途

●高い引抜耐力を必要とする柱脚の接合部に使用します。

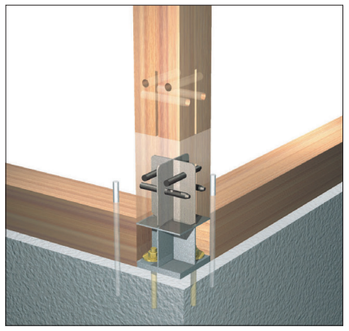
特　長

●アンカーボルトの性能をフルに発揮する高い引抜性能があります。
●アンカーボルト用ルーズホール穴は±5mmです。
●柱脚のドリフトピンは専用ドリフトピンを使用します。

施工方法

①基礎の上に置き、アンカーボルトM16に緊結します。
②柱を立てて、柱脚に専用ドリフトピンを4本打ち込んで固定します。

■納まりイメージ



使用接合具

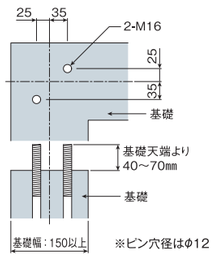
		PBH-63（105用）	PBH-63（120用）
柱	専用ドリフトピン（付属品）	4本	4本
基　礎	アンカーボルトM16（別売品）	2本	2本

耐　力

製品名	接合形態	短期基準耐力（kN） 引張	せん断	圧縮	試験時使用樹種
PBH-63	土台部	48.4	14.0	118.6	柱：スギ同一等級構成集成材 E65-F255
		63.4			柱：スプルース同一等級構成集成材 E95-F315

表中の数値は（一財）建材試験センター／（株）タツミ社内試験データによる。
※1. 試験時使用材寸法 柱材：□105mm
※2. アンカーボルトの材料強度等にご注意ください。
※3. N値に換算する場合は耐力値÷5.3（1960N×2.7m）を基本に算出

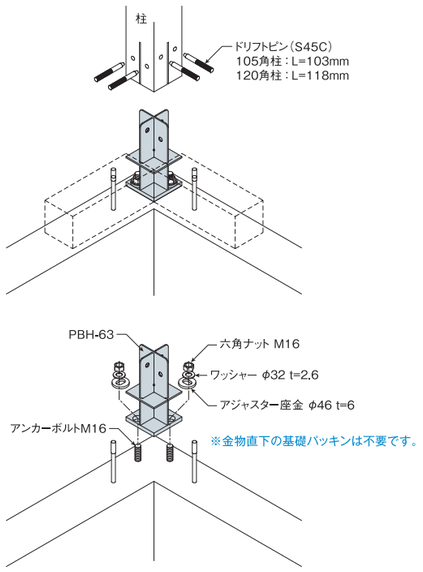
■基礎上面（アンカーボルトの配置）



告示第1460号第二号表三（アンカー直結）

告示表3	N　値	柱（スプルース集成材） PBH-63
（い）	0	○
（ろ）	0.65	
（は）	1.0	
（に）	1.4	
（ほ）	1.6	
（へ）	1.8	
（と）	2.8	
（ち）	3.7	
（り）	4.7	
（ぬ）	5.6	

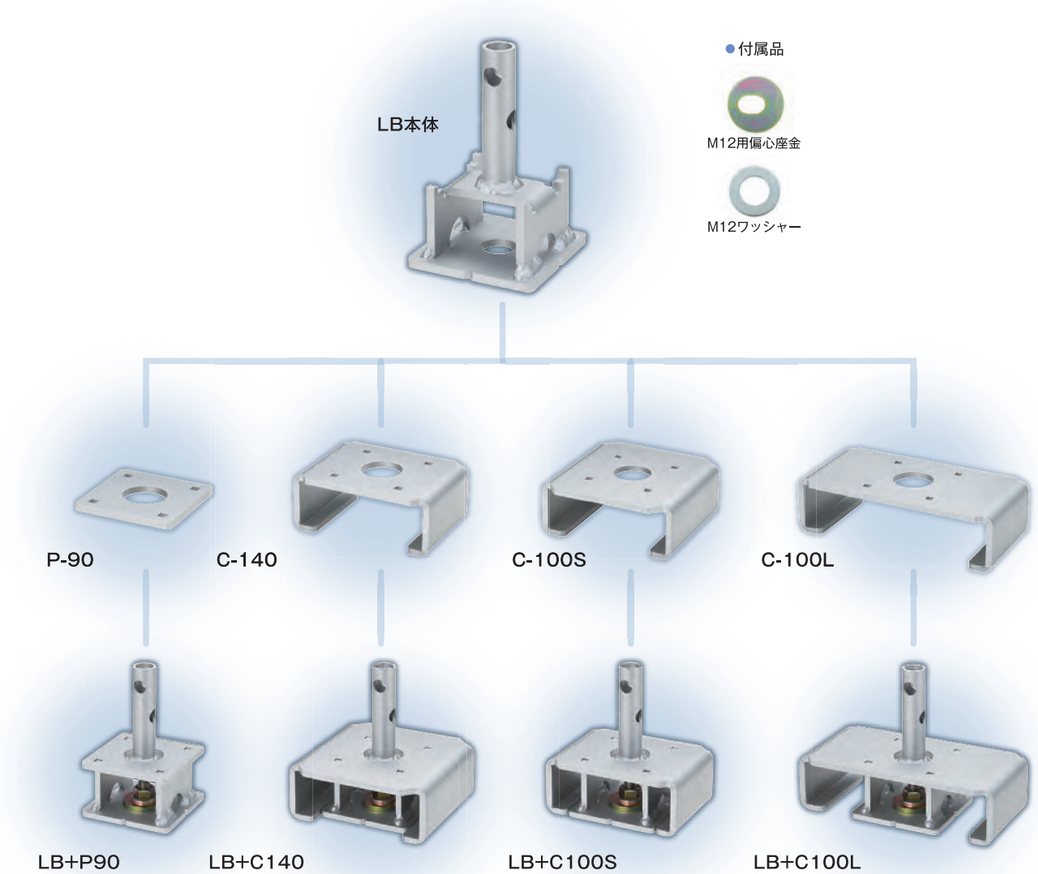
■納まり図



Tec-One テックワン

パイプ式独立低柱脚金物 LB

アンカーボルト直結型金物（1階柱脚金物）



用　途

- 独立柱の柱脚の接合部に使用します。

特　長

- ダブルベース部の高さが55mmと低いため、床仕上げ面より下に金物が隠れやすい高さです。
- アンカーボルトM12を使用し、アンカーボルト用のルーズホール穴は±6mmまで対応できます。
- 柱受部品を変えることで90角～300角、平柱にも対応できます。
- 柱仕口の加工はホールダウンパイプと同じφ22となります。

施工方法

①LB本体をアンカーボルトM12にセットします。
②下から順にM12用偏心座金・M12ワッシャー・ナットにて留め付けます。
③柱受部品（柱断面に応じたもの）を被せます。
④柱をパイプ部に挿入し仕様に応じた本数のドリフトピン（別売品）を打ち込みます。
※使用するドリフトピンについては技術資料を参照ください。

サイズ	LB本体：90×90×144mm　パイプ：φ21.7×L95	
	P-90：90×90mm　C-140：140×140×55mm	
	C-100S：135×100×55mm　C-100L：200×100×55mm	
材　質	JIS G3444 STK500　JIS G3101 SS400	
表面処理	ノンクロムラスパート処理	
セット内容	LB+P90	LB本体　P-90　M12用偏心座金　M12ワッシャー　各1
	LB+C140	LB本体　C-140　M12用偏心座金　M12ワッシャー　各1
	LB+C100S	LB本体　C-100S　M12用偏心座金　M12ワッシャー　各1
	LB+C100L	LB本体　C-100L　M12用偏心座金　M12ワッシャー　各1
梱　包	1セット／ケース	

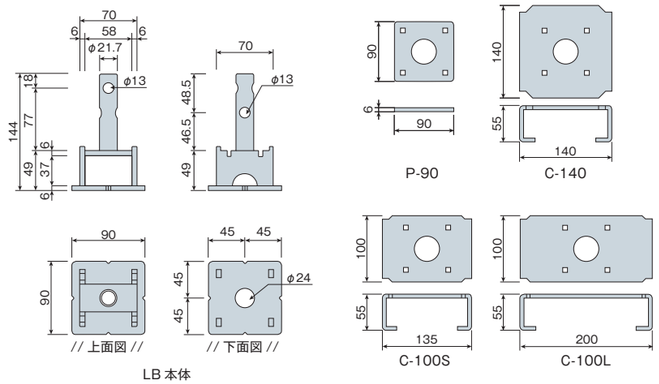
※ドリフトピン、アンカーボルトM12は別売品です。

耐　力

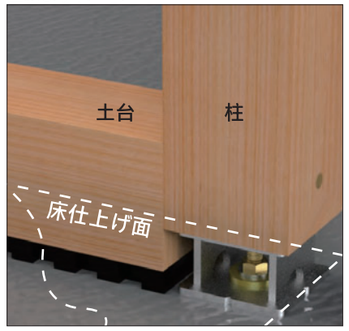
製品名		接合形態		短期基準耐力(kN) 引張	せん断	圧縮	試験時使用樹種
LB	P-90	アンカー直結	独立柱部	6.3 ドリフトピン1本	3.8	94.7	柱：スギKD　無等級　柱断面 90×90
	C-140					159.9	柱：スギKD　無等級　柱断面 150×150
	C-100S					108.7	柱：スギKD　無等級　柱断面 105×105
	C-100L			18.3 ドリフトピン2本		145.7	柱：スギKD　無等級　柱断面 105×210
	C-100S 2個配置					262.5	柱：スギKD　無等級　柱断面 105×270

表中の数値は（一財）建材試験センター／ハウスプラス確認検査（株）試験データ及び（株）タツミ社内試験データによる。
※1. 試験時使用材寸法 柱材：□105mm
※2. N値に換算する場合は耐力値÷5.3（1960N×2.7m）を基本に算出

■寸法図

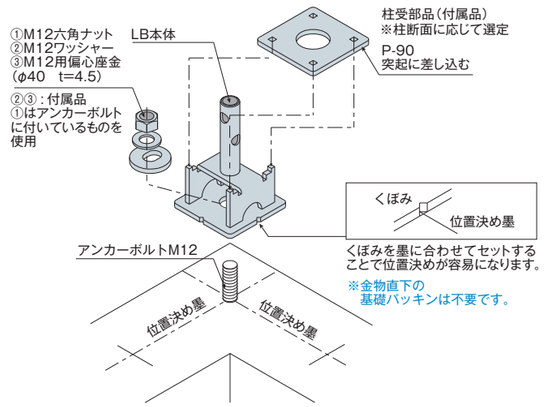


■納まりイメージ

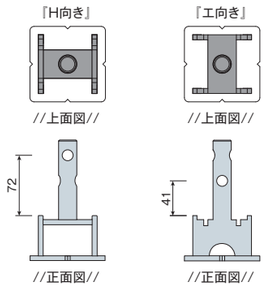


ダブルベース部の高さが55㎜と低いため、
床仕上げ面より下に金物が隠れやすい高さです。

■納まり図



■金物取り付け方向



※金物の取り付け方向でドリフトピンの向きが決まります。適宜ご確認ください。

■柱断面と柱受部品の組み合わせ一例■

※使用ドリフトピンについては技術資料を参照
※長辺180mmを超える断面の組み合わせについては技術資料を参照

短辺(mm) ＼ 長辺(mm)	90	105	120	135	150	180
90	本体×1：P-90×1	本体×1：P-90×1	本体×1：P-90×1	本体×1：P-90×1		
105		本体×1：P-90×1	本体×1：P-90×1	本体×1：C-100S×1	本体×1：C-100S×1	本体×1：C-100S×1
120			本体×1：P-90×1	本体×1：C-100S×1	本体×1：C-100S×1	本体×1：C-100S×1
135				本体×1：C-100S×1	本体×1：C-100S×1	本体×1：C-100S×1
150					本体×1：C-140×1	本体×1：C-140×1
180						本体×1：C-140×1

Tec-One テックワン

高耐力パイプ式柱頭柱脚金物 HPB-46 Tタイプ(梁・柱接合用)／+タイプ(柱・梁・柱接合用)

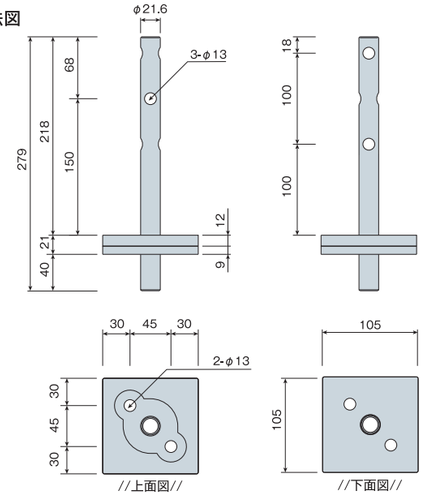
梁に取り付く柱の接合用金物(高引抜き耐力仕様)

HPB-46

●付属品

専用座金

■寸法図



用　途

- 高い引抜耐力を必要とする柱と梁の接合部に使用します。
- Tタイプは梁の上または下に取り付きます。
- +タイプは梁の上下に取り付きます。

特　長

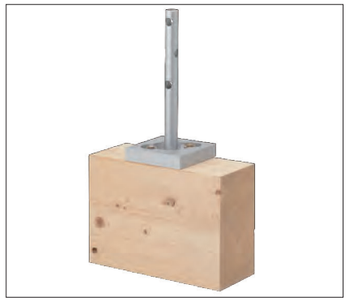
- ホールダウンパイプよりも高い引抜耐力があります。
- 梁成180～570と幅広い梁成に対応しています。
- 柱仕口の加工はホールダウンパイプと同じφ22となります。
- TRSめり込み防止プレートを入れられます。

施工方法

①Tタイプの場合は金物を挿入しボルトをさし、座金を入れナットを締めます。

②+タイプの場合は上下とも金物を付け、六角ボルトとナットで固定します。

■納まりイメージ



告示第1460号第二号表三(HPB)			
告示表3	N 値	柱-横架材(スプルース集成材)	スギ集成材
		HPB-46	
(い)	0	○	○
(ろ)	0.65		
(は)	1.0		
(に)	1.4		
(ほ)	1.6		
(へ)	1.8		
(と)	2.8		
(ち)	3.7		
(り)	4.7		
(ぬ)	5.6		

サ イ ズ	105×150×279mm
材　　質	JIS G4051 S40C　JIS G3101 SS400
表面処理	ノンクロムラスパート処理
セット内容	Tタイプ(本体1個)　専用座金(付属品)：1枚
梱　　包	Tタイプ　1セット／ケース　　+タイプ　1セット／ケース

使用接合具

		Tタイプ	+タイプ
柱　側	ドリフトピン(別売品)	3本	6本
横架材側	Zマーク六角ボルトM12(ナット付)(別売品)	2本	2本

耐　力

柱脚・柱頭部

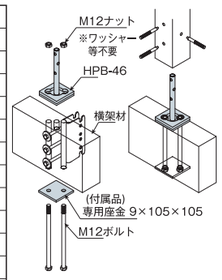
製品名	接合形態		短期基準耐力(kN) 引張	せん断	圧縮	試験時使用樹種
HPB-46 梁H=180以上	梁貫通・柱脚柱頭	中柱	26.9	5.0	39.5	柱：スギ同一等級構成集成材 E65-F255 横架材：スギ対称異等級構成集成材 E65-F225
		隅柱 隅角部	46.1		43.4	柱：スプルース同一等級構成集成材 E95-F315 横架材：スプルース対称異等級構成集成材 E105-F300

表中の数値はハウスプラス確認検査(株)／(株)タツミ社内試験データによる。
※1. 試験時使用材寸法 柱材：□105mm　横架材：幅=105mm　せい=180mm
※2. N値に換算する場合は耐力値÷5.3(1960N×2.7m)を基本に算出
※3. TRSめり込み防止プレートを使用する場合は、ボルト長さが異なります。
TRSめり込み防止プレート1枚：下表+15mm
TRSめり込み防止プレート2枚：下表+30mm

■梁成に対するボルト長さ

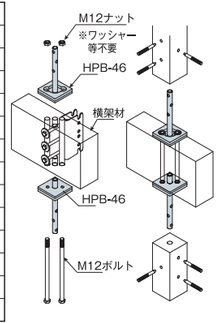
《Tタイプ》

梁せい	ボルト長さ
180	210
210	240
240	270
270	300
300	330
330	360
360	390
390	420
420	450
450	480
480	510
510	540
540	570
570	600



《+タイプ》

梁せい	ボルト長さ
180	210
210	240
240	270
270	300
300	330
330	360
360	390
390	420
420	450
450	480
480	510
510	540
540	570
570	600



Tec-One テックワン

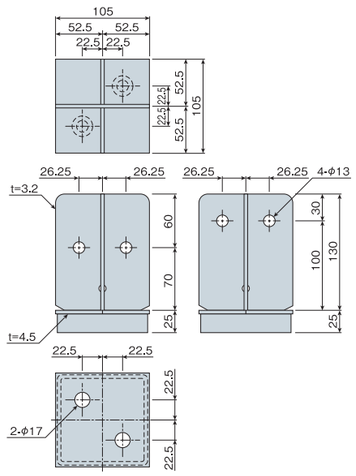
高耐力スリット式柱頭柱脚金物 PBC Tタイプ(梁・柱接合用)／+タイプ(柱・梁・柱接合用)

梁に取り付く柱の接合用金物(高引抜き耐力仕様)

PBC-27･49(105・120用)

●付属品

■寸法図



用　途

- 高い引抜耐力を必要とする柱と梁の接合部に使用します。
- Tタイプは梁の上または下に取り付きます。
- +タイプは梁の上下に取り付きます。

特　長

- ホールダウンパイプよりも高い引抜耐力があります。
- 梁成180・210・240・270・300・330・360・390と幅広い梁成に対応しています。※1
- 柱の固定は専用ドリフトピンを使用します。

※1 上記梁成以外は特注品になります。

施工方法

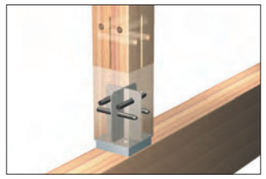
①梁にパイプナットを通し、PBCを六角穴付きボルトで固定します。

②Tタイプの場合はPBCが取付く側と反対側は座金と六角ボルトを使って固定します。

③+タイプの場合は反対側も同じようにPBCを六角穴付きボルトで固定します。

④柱側に専用ドリフトピンを4本ずつ打ち込んで固定します。

■納まりイメージ



告示第1460号第二号表三(PBC)			
告示表3	N 値	柱・横架材(スプルース集成材) PBC-27	PBC-49
(い)	0	○	○
(ろ)	0.65		
(は)	1.0		
(に)	1.4		
(ほ)	1.6		
(へ)	1.8		
(と)	2.8		
(ち)	3.7		
(り)	4.7		
(ぬ)	5.6	×	

サ イ ズ	PBC-27･49：105×105×155mm
	パイプナット：φ21.7
材　　質	JIS G 3131 SPHC　JIS G 3466 STKR400
表面処理	ノンクロムラスパート処理
付属部品	Tタイプ=六角穴付きボルト：2本　パイプナットφ21.7：2本　専用座金：1枚　六角ボルト：2本
	専用ドリフトピン(S45C)：4本
	+タイプ(本体2個)=六角穴付きボルト：4本　パイプナットφ21.7：2本
	専用ドリフトピン(S45C)：8本
梱　　包	PBC-27T180・210：2セット／ケース　PBC-27+180・210：1セット／ケース
	PBC-49T240・270・300・330・360・390：2セット／ケース
	PBC-49+240・270・300・330・360・390：1セット／ケース

使用接合具

柱　側	専用ドリフトピン(付属品)：4本	

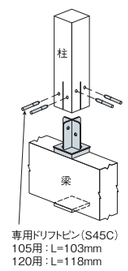
耐　力

製品名		接合形態	短期基準耐力(kN) 引張	せん断	圧縮	試験時使用樹種
PBC-27･49	梁H=180	梁貫通・柱脚柱頭	27.7	9.5	44.0	柱：スプルース同一等級構成集成材 E95-F315 横架材：スプルース対称異等級構成集成材 E105-F300
	梁H=240		49.1			

表中の数値は(一財)建材試験センター／ハウスプラス確認検査(株)試験データ及び(株)タツミ社内試験データによる。
※1. 試験時使用材寸法　柱材：□105mm 横架材：幅=105mm せい=180mm／240mm
※2. N値に換算する場合は耐力値÷5.3(1960N×2.7m)を基本に算出

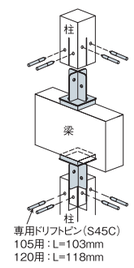
Tタイプ対応梁成

品　番	梁成(mm)
PBC-27T180	180
PBC-27T210	210
PBC-49T240	240
PBC-49T270	270
PBC-49T300	300
PBC-49T330	330
PBC-49T360	360
PBC-49T390	390

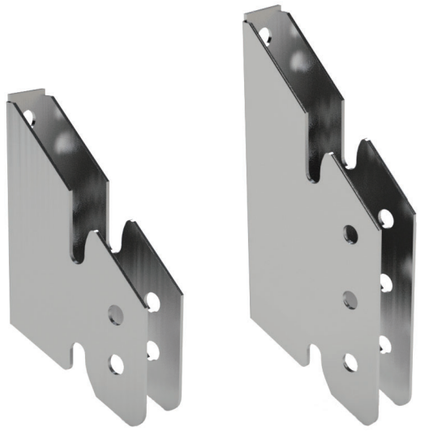


+タイプ対応梁成

品　番	梁成(mm)
PBC-27+180	180
PBC-27+210	210
PBC-49+240	240
PBC-49+270	270
PBC-49+300	300
PBC-49+330	330
PBC-49+360	360
PBC-49+390	390



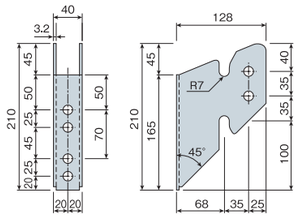
Tec-One（テックワン） 登り梁受金物 GUD



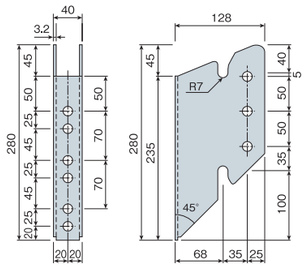
GUD-180
対応梁成：180mm

GUD-240
対応梁成：240mm

■寸法図



GUD-180



GUD-240

用　途

- 4寸～10寸勾配までの登り梁（梁成180・240）の接合部に使用します。

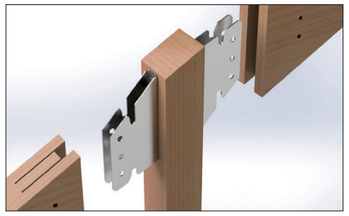
特　長

- 水上用、水下用は同一金物を反転させて使用します。
- テックワン等と同様、ボルトとドリフトピンによる単純な組み合わせで施工可能です。

施工方法

①ボルトにて柱材や横架材に金物を取り付けます。
②登り梁の仕口には予め所定の位置にドリフトピンを打ち込んでおきます。（先行ピン）※1
③登り梁を落とし込んだ後、残りのドリフトピンを打ち込んで固定します。
※1 先行ピンを正しく打ち込む事により、登り梁を落とし込む際の落下防止になります。

■納まりイメージ



サ イ ズ	GUD-180：128×40×210mm　GUD-240：128×40×280mm
材　　質	JIS G 3131 SPHC
表面処理	新溶融めっき
梱　　包	GUD-180：12個／ケース　GUD-240：10個／ケース

使用接合具

		GUD-180	GUD-240
柱　　側	M12中ボルト（別売品）	2本	3本
横架材側	ドリフトピン（別売品）	3本	4本

耐　力

接合形態		柱一登り梁接合部	梁一登り梁接合部	試験時使用樹種
製品名		短期基準せん断接合耐力（kN）		
GUD-180	4寸勾配	10.4	—	柱：スギKD材 無等級　横架材：米松KD材 無等級
		—	10.7	柱：スギ同一等級構成集成材 E65-F255 横架材：スギ対称異等級構成集成材 E65-F225
	10寸勾配	16.3	—	柱：スギKD材 無等級　横架材：米松KD材 無等級
GUD-240	4寸勾配	31.2	—	柱：スプルース同一等級構成集成材 E95-F315 横架材：スプルース対称異等級構成集成材 E105-F300
		21.0	16.2	柱：スギ同一等級構成集成材 E65-F255 横架材：スギ対称異等級構成集成材 E65-F225
	10寸勾配	32.0	—	柱：スプルース同一等級構成集成材 E95-F315 横架材：スプルース対称異等級構成集成材 E105-F300

製品名		短期基準逆せん断接合耐力（kN）		試験時使用樹種
GUD-180	4寸勾配	10.7	—	柱：スギKD材 無等級　横架材：米松KD材 無等級
	10寸勾配	15.1	—	
GUD-240	4寸勾配	29.6	—	柱：スプルース同一等級構成集成材 E95-F315 横架材：スプルース対称異等級構成集成材 E105-F300
	10寸勾配	29.1	—	

製品名		短期基準引張耐力（kN）	引張接合部倍率 引張耐力÷5.3kN	短期基準引張耐力（kN）	引張接合部倍率 引張耐力÷5.3kN	試験時使用樹種
GUD-180	4寸勾配	15.5	2.9	17.9	3.3	柱：スギKD材 無等級 横架材：スギ対称異等級構成集成材 E65-F225
	10寸勾配	20.7	3.9	—	—	
GUD-240	4寸勾配	21.5	4.0	34.9	6.5	柱：スギKD材 無等級 横架材：スギ対称異等級構成集成材 E65-F225
	10寸勾配	25.6	4.8	—	—	

表中の数値は（一財）建材試験センター試験データ／（株）タツミ社内試験データによる。
※ 試験時使用材寸法 柱材：□105mm　横架材：幅＝105mm　せい＝180／240mm

■荷重期間における基準耐力の算出について
短期基準耐力：1.0とした場合、中短期：0.8、中長期：0.715、長期：0.55
出典（一社）日本建築学会木質構造設計規準・同解説ー許容応力度・許容耐力設計法ー

Tec-One（テックワン） 水平斜め梁受金物 BAP

BAP-180 30R(L)
対応梁成：180mm

BAP-180 45R(L)
対応梁成：180mm

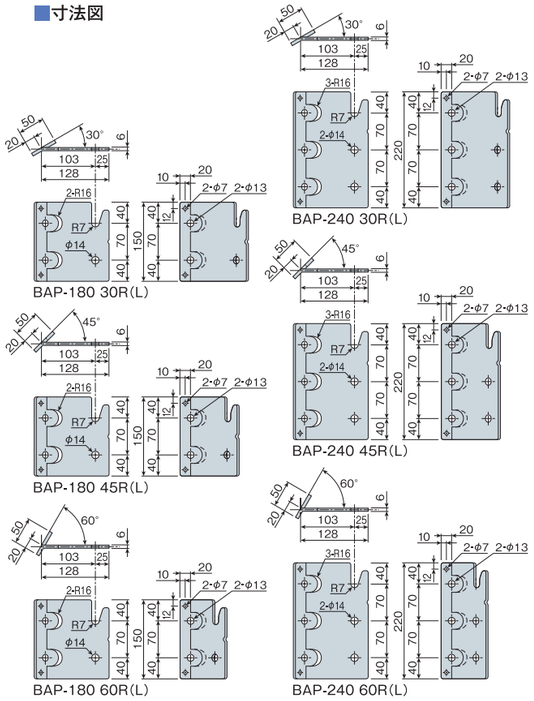
BAP-180 60R(L)
対応梁成：180mm

BAP-240 30R(L)
対応梁成：240mm

BAP-240 45R(L)
対応梁成：240mm

BAP-240 60R(L)
対応梁成：240mm

■寸法図



用　途

- 平面上斜めに取付く横架材を接合する際に使用します。

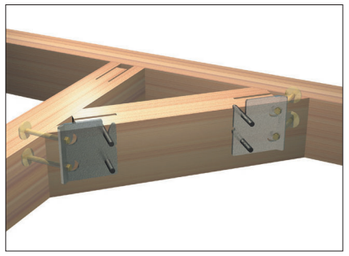
特　長

- 30度・45度・60度の角度に対応しています。
- テックワン等と同様、ボルトとドリフトピンによる単純な組み合わせで施工可能です。

施工方法

①ボルトにて柱材や横架材に金物を取り付けます。
②斜め梁の仕口には予め所定の位置にドリフトピンを打ち込んでおきます。（先行ピン）※1
③斜め梁を落とし込んだ後、残りのドリフトピンを打ち込んで固定します。
※1 先行ピンを正しく打ち込む事により、斜め梁を落とし込む際の落下防止になります。

■納まりイメージ



サ イ ズ	BAP-180：128×150×50mm BAP-240：128×220×50mm
材　　質	JIS G 3131 SPHC
表面処理	ノンクロムラスバート処理

使用接合具

		BAP-180	BAP-240
斜 め 梁 側	ドリフトピン（別売品）	2本	3本
柱・横架材側	M12中ボルト（別売品）	2本	3本

耐　力

製品名		短期基準せん断接合耐力（kN）	試験時使用樹種
BAP-180	30	14.0	柱：スプルース集成材 横架材：スプルース集成材
	45	14.5	
	60	15.6	
BAP-240	30	23.9	
	45	27.2	
	60	26.6	

製品名		短期基準引張耐力（kN）	存在接合部倍率（引張耐力÷5.3kN）	
BAP-180	30	13.4	2.5	柱：スプルース集成材 横架材：スプルース集成材
	45	19.1	3.6	
	60	22.2	4.1	
BAP-240	30	19.4	3.6	
	45	22.8	4.3	
	60	25.9	4.8	

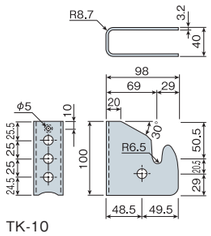
表中の数値は（株）タツミ社内試験データによる。
※試験時の使用木材
柱　材／寸法：105×105　樹種：スプルース同一等級構造用集成材 E95-F315
横架材／寸法：105×180／240　樹種：スプルース対称異等級構造用集成材 E120-F330

■荷重期間における基準耐力の算出について
短期基準耐力：1.0とした場合、中短期：0.8、中長期：0.715、長期：0.55
出典（一社）日本建築学会木質構造設計規準・同解説ー許容応力度・許容耐力設計法ー

Tec-One テックワン 火打ち梁受金物 TK-10

TK-10

■寸法図



TK-10

用　途

- 火打ち梁と横架材を接合する際に使用します。

特　長

- 梁に片木大入れを作らないので欠損が少ないです。
- ボルトとドリフトピンによる単純な組み合わせで施工可能です。

施工方法

①ボルトにて横架材に金物を取り付けます。
②火打ち梁の仕口には予め所定の位置にドリフトピンを打ち込んでおきます。(先行ピン)※1
③火打ち梁を取り付けた後、残りのドリフトピンを打ち込んで固定します。
※1 先行ピンを正しく打ち込む事により、斜め梁を落とし込む際の落下防止になります。

サイズ	98×100×40mm
材　質	新溶融めっき鋼板
梱　包	TK-10：30個／ケース

使用接合具

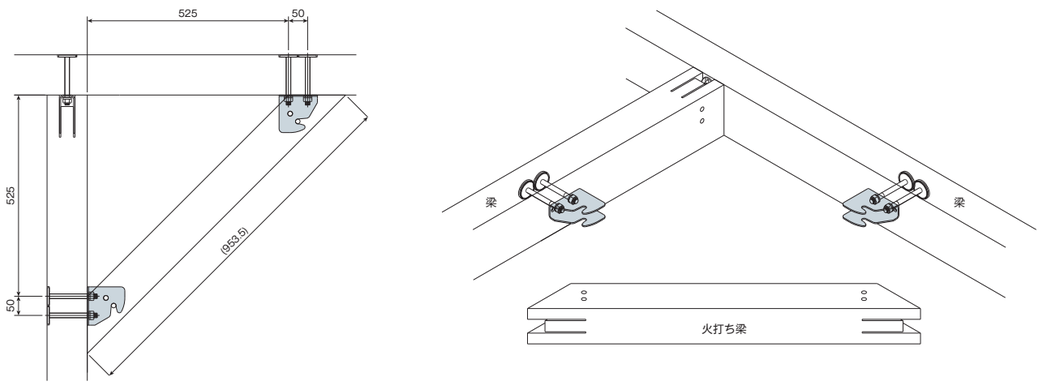
金物取り付け	ボルト2本またはMZ45ボルト2本
火打ち梁取り付け	ドリフトピン2本

耐　力

仕様規定の木製火打と同等以上

※ハウスプラス確認検査(株)により仕様規定の木製火打と同等以上の耐力を有するとして性能確認試験済み

■納まり図



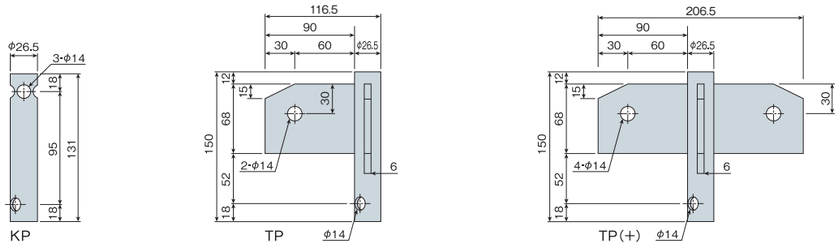
Tec-One テックワン 隅谷木受金物 KP・TP

KP

TP

TP(+)

■寸法図



用　途

- 隅木、谷木が取付く柱材や横架材の接合部に使用します。

特　長

- GP-95と同じ穴径で加工可能です。
- ドリフトピンを使用して簡単に緊結できます。

施工方法

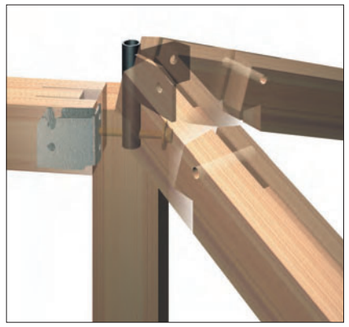
①ボルト(場合によってはドリフトピン)にて横架材に取り付けます。
柱勝ち、束勝ち部分はそれぞれ柱頭に取り付けます。
②隅木(谷木)を落とし込んだ後、ドリフトピンを打ち込んで固定します。

サイズ	KP：φ26.5×131mm　TP：116.5×116.5×150mm　TP(+)：206.5×206.5×150mm
材　質	JIS G3444 STK400　　JIS G3131 SPHC
表面処理	黒色カチオン電着塗装(15μm以上)
梱　包	KP：30個／ケース　TP：5個／ケース　TP(+)：1個／ケース

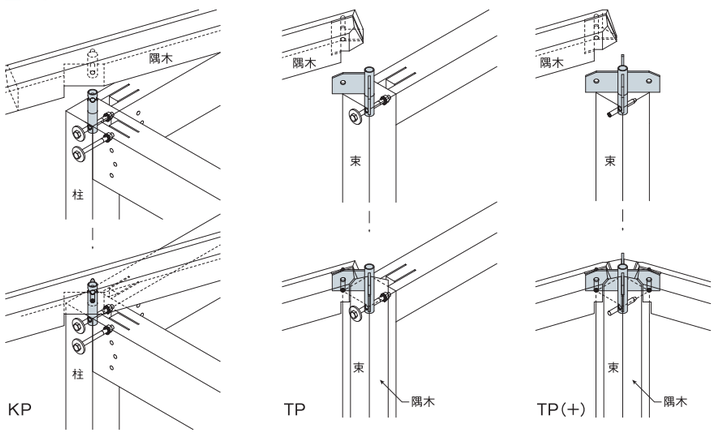
使用接合具

		KP	TP	TP(+)
隅木・谷木側	ドリフトピン(別売品)	1本	1本	1本
KP取付側	ドリフトピンまたはM12中ボルト(別売品)	1本	ー	ー
TP・TP(+)取付側	ドリフトピンまたはM12中ボルト(別売品)	ー	1本	1本

■納まりイメージ

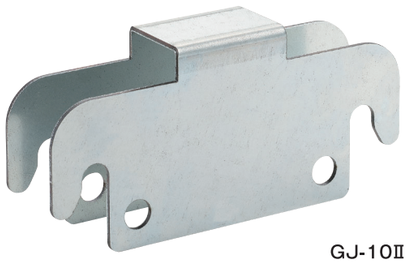


■納まり図

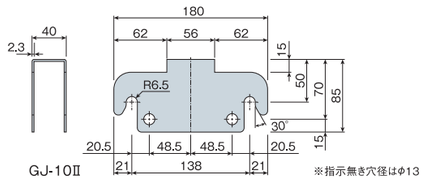


評定書、技術資料、試験成績表などは 株式会社タツミ 検索 www.tatsumi-web.com ▶▶▶「ダウンロード」をご覧ください。

Tec-One（テックワン） 土台継手金物 GJ-10Ⅱ



■寸法図



用　途

●土台と土台を接合する際に使用します。

特　長

●オス･メスがないため、土台の組み順を気にせず施工することができます。

施工方法

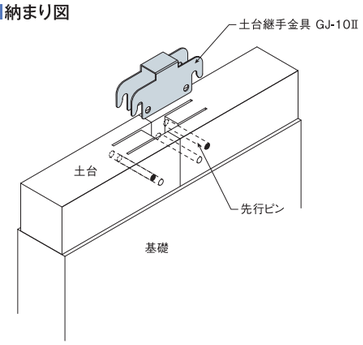
① 予め土台の仕口の所定の位置にドリフトピンを打ち込んでおく。
② 土台と土台を金物とドリフトピンで緊結する。
③ 残りのドリフトピンを打ち込む。

サ イ ズ	180×40×85mm
材　　質	新溶融めっき鋼板
梱　　包	20個／ケース

使用接合具

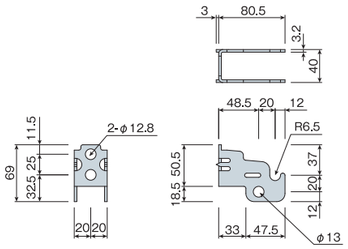
土台　ドリフトピン（別売品）：片仕口2本×2 合計4本

■納まり図



Tec-One（テックワン） バリアフリー対応梁受金物 BFⅡ

■寸法図



用　途

●和室の床組を48mm程度下げる際に使用する大引受金物です。

特　長

●土台側面と基礎側面の差が片側15mm程度まで対応します。

施工方法

①ボルトにて土台に金物を取り付けます。
②大引きの仕口には予め所定の位置にドリフトピンを打ち込んでおきます。
（先行ピン）※1
③大引きを落とし込んだ後、残りのドリフトピンを打ち込みます。

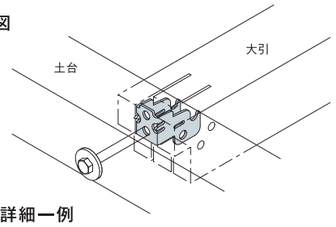
※1 先行ピンを正しく打ち込む事により、横架材を落とし込む際の落下防止になります。

サ イ ズ	80.5×40×69mm
材　　質	新溶融めっき鋼板
梱　　包	30個／ケース

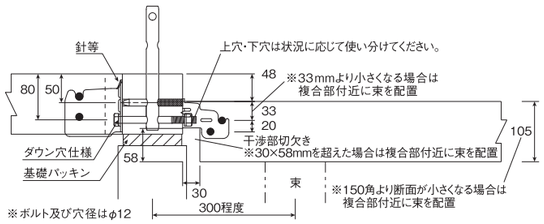
使用接合具

		BFⅡ
土台側	M12 中ボルト（別売品）	1本
大引側	ドリフトピン（別売品）	2本

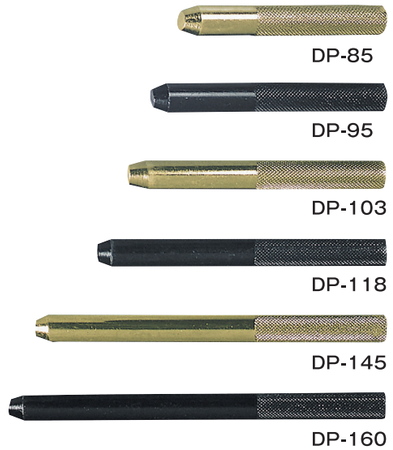
■納まり図



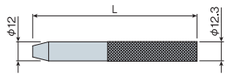
■納まり詳細一例



Tec-One（テックワン） ドリフトピン DP



■寸法図



L：85、95、103、118、145、160
※特注サイズ対応についてはお問い合わせください。

用　途

●各種金物の接合具として使用します。

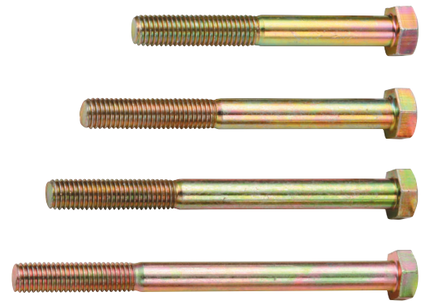
特　長

●ローレット部分が木材にめり込むことにより抜けの防止になります。

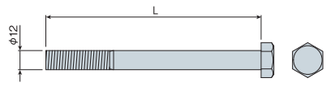
サ イ ズ	DP-85：φ12×85mm　DP-95：φ12×95mm
	DP-103：φ12×103mm　DP-118：φ12×118mm
	DP-145：φ12×145mm　DP-160：φ12×160mm
材　　質	伸線後の引張強さが400N／mm²を満足する鋼製線材
表面処理	DP-85・DP-103・DP-145：
	JIS H 8610（電気亜鉛めっき）Ep-Fe/Zn8/CM2（有色）
	DP-95・DP-118・DP-160：
	JIS H 8610（電気亜鉛めっき）Ep-Fe/Zn8/CM3（黒色）
梱　　包	DP-85・95・103・118：100本／ケース
	DP-145・160：50本／ケース

※ドリフトピンφ16は88ページ参照

Tec-One（テックワン） 中ボルト MB



■寸法図



L：100、110、120、125、130、135、140、150、160、170、180
190、210、220、240、250、270、280、300、330、360、390
※特注サイズ対応についてはお問い合わせください。

用　途

●各種金物の接合用ボルトとして使用します。

特　長

●太い軸径（12mm）で金物と木材を正確かつ強固に接合します。

サ イ ズ	M12×L＝100・110・120・125・130・135・140・150
	160・170・180・190・210・220・240・250
	270・280・300・330・360・390mm
材　　質	JIS B 1180 の強度区分4.6を満足する炭素鋼
表面処理	JIS H 8610（電気亜鉛めっき）Ep-Fe/Zn8/CM2
付属部品	ナット：1個
梱　　包	100・110・120・125・130・135・140・150・160：100本／ケース
	170・180・190・210・220・240・250・270・280・300
	330・360・390：1本より

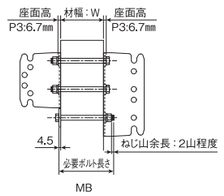
※バクトナットは37ページ参照

■ボルト長さについて

ボルト長さは取り付く材幅に金物・ナット・座金などの厚さを加え、ナットよりネジ山余長：2山程度を確保してください。

■ボルト長さ対照表

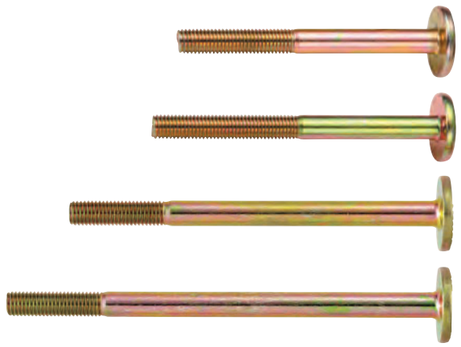
ボルト仕様		MB（中ボルト）仕様
取合い図		両引き　片引き
材幅	90	MB-120
	105	MB-135
	120	MB-150
	150	MB-180
	180	MB-210
	210	MB-240
	240	MB-270
	270	MB-300
	300	MB-330
	330	MB-360
	360	MB-390



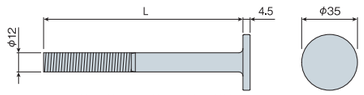
材幅＋30mmが最適長さとなります。

評定書、技術資料、試験成績表などは 株式会社タツミ 検索 www.tatsumi-web.com ▶▶▶「ダウンロード」をご覧ください。

Tec-One 丸座軸太ボルト MZ



■寸法図



L：110、125、140、170、190
200、230、240、260、290、320

用　途

●各種金物の接合用ボルトとして使用します。

特　長

●座掘りによる断面欠損を最小限に抑えることが可能です。
●座掘り加工は、「ザボリくん」を使用すれば座掘り6mmに納めることができます。

サイズ	M12×L=110・125・140・170・190 200・230・240・260・290・320mm
材　質	JIS G 3507-1 SWRCH8～10
表面処理	JIS H 8610（電気亜鉛めっき）Ep-Fe/Zn8/CM2
付属部品	バクトナット：1個
梱　包	110・125・140：100本／ケース 170・190・200・230・240・260・290・320：50本／ケース

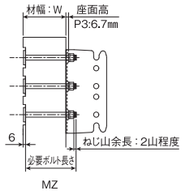
※バクトナットは37ページ参照

■ボルト長さについて

ボルト長さは取り付く材幅に金物・ナット・座金などの厚さを加え、ナットよりネジ山余長：2山程度を確保してください。

■ボルト長さ対照表

ボルト仕様		MZ45(丸座軸太ボルト)仕様
取合い図		片引き
材幅	90	MZ45-110
	105	MZ45-125
	120	MZ45-140
	150	MZ45-170
	180	MZ45-200
	210	MZ45-230
	240	MZ45-260
	270	MZ45-290
	300	—
	330	—
	360	—



材幅+20mmが最適長さとなります。

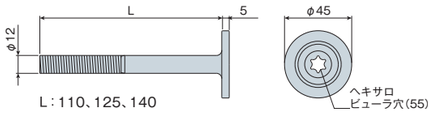
Tec-One 丸座軸太ボルト MZ45

通常サイズ

ロングサイズ

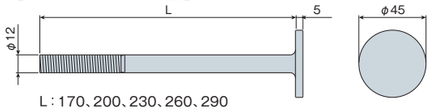
■寸法図

【通常サイズ寸法図】



L：110、125、140

【ロングサイズ寸法図】



L：170、200、230、260、290

用　途

●各種金物の接合用ボルトとして使用します。

特　長

●L110、125、140まで（公財）日本住宅・木材技術センター性能認定を取得しています。
※ロングサイズは認定対象外
●座掘りによる断面欠損を最小限に抑えることが可能です。
●座掘りなしの場合でも、「ザボリくん」を使用すれば座掘り6mmに収めることができます。

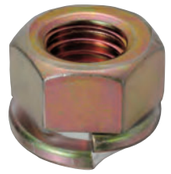
【通常サイズ】

サイズ	M12×L=110・125・140mm
材　質	強度区分4.6または4.8を満足する炭素鋼
表面処理	JIS H 8610（電気亜鉛めっき）Ep-Fe/Zn8/CM2
付属部品	バクトナット：1個
承　認	SB2-26B16-01
梱　包	100本／ケース

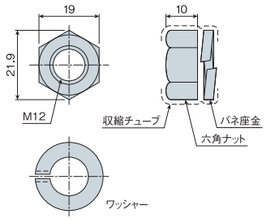
【ロングサイズ】

サイズ	M12×L=170、200、230、260、290mm
材　質	強度区分4.6または4.8を満足する炭素鋼
表面処理	JIS H 8610（電気亜鉛めっき）Ep-Fe/Zn8/CM2
付属部品	バクトナット：1個
梱　包	170、200、230、260、290：1本より

Tec-One パクトナット NS-M12



■寸法図



用　途

●各種金物などの接合具として使用します。

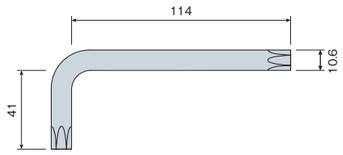
特　長

●ナットとスプリングワッシャーが一体式になっているので、紛失やはめ忘れがありません。

サイズ	M12
材　質	SS相当材もしくは軟鋼線材
表面処理	JIS H 8610（電気亜鉛めっき）Ep-Fe/Zn8/CM2
梱　包	1,200個（100個×12）／ケース

Tec-One MZ45用レンチ

■寸法図



用　途

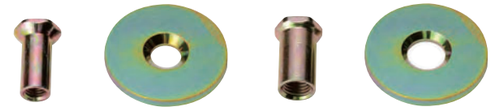
●MZ45の締め付け・締め直しに使います。

特　長

●狭い箇所での作業に便利なL型レンチ形状です。

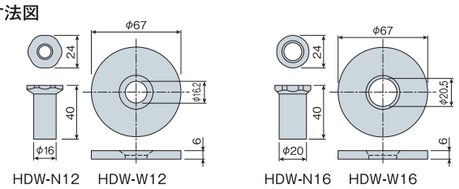
サイズ	114×41mm　T-55
梱　包	1個／ケース

Tec-One ホールダウンワッシャー HDW



HDW-N12 ナットM12　HDW-W12 丸座金M12　HDW-N16 ナットM16　HDW-W16 丸座金M16

■寸法図



HDW-N12　HDW-W12　HDW-N16　HDW-W16

用　途

●土台の浮き上がりを防ぐ際に使用する金物です。

特　長

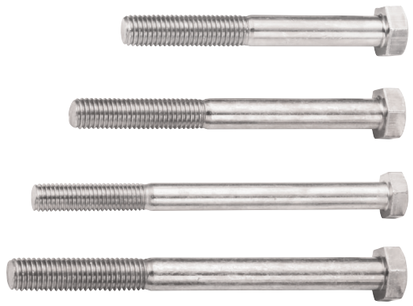
●土台部分の欠損を最小限に抑えます。

サイズ	HDW-W12：外径φ67　HDW-W16：外径φ67
材　質	JIS G 3101 SS400　JIS G 3507-2 SWCH10R相当
表面処理	JIS H 8610（電気亜鉛めっき）EP-Fe/Zn8/CM2
梱　包	HDW-12：60個／ケース　HDW-16：60個／ケース

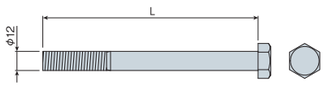
■使用例

評定書、技術資料、試験成績表などは 株式会社タツミ 検索 www.tatsumi-web.com ▶▶▶「ダウンロード」をご覧ください。

Tec-One（テックワン） HDCⅢ専用高力ボルト



■寸法図



L：125、135、140、150

※125、140は在庫無くなり次第廃盤となります。

用　途

●HDCⅢの納まった土台に対して金物が対面に取り付く場合に使用します。

サ イ ズ	M12×L＝125・135・140・150mm
材　　質	JIS B 1180の強度区分8.8または10.9を満足する炭素鋼
表面処理	JIS H 8610（電気亜鉛めっき）Ep-Fe/Zn5/CM1
梱　　包	125・135・140・150：1本より

Tec-One（テックワン） ピン抜き棒

用　途

●ドリフトピンを木材面より深く打ち込む、または抜くといった作業時に使用します。

特　長

● 高強度で耐摩耗性の優れた素材を使用しているので、ハンマー等を用いた打撃でも変形することなく長くご使用いただけます。
●穴があるため落下防止のワイヤーを取り付けることが出来ます。

サ イ ズ	φ20×L270mm
材　　質	JIS G 4404 SKD11
表面処理	JIS H 8610（電気亜鉛めっき）Ep-Fe/Zn8/CM1
梱　　包	1本より

Tec-One（テックワン） ザグリキリ

用　途

●土台材などの座掘り用の工具です。

特　長

●穴あけサイズの調整可能。
●穴あけ範囲：φ34mm～φ80mm

サ イ ズ	取付部：13mm（三面）
梱　　包	1個／ケース

■使用例

Tec-One（テックワン） マグネットソケット（12.7角用）

用　途

●ボルトの締め付けに使用します。

特　長

●マグネットが付いているため、ナットが落下する心配がありません。
●テックワン・各種金物の内側のナットを締め付ける際に最適なロングタイプです。

サ イ ズ	差込角：12.7×全長：130mm
梱　　包	1個／ケース

※お使いのインパクトレンチの差込角をご確認ください。

■使用例

Tec-One（テックワン） ザボリくん A・B

用　途

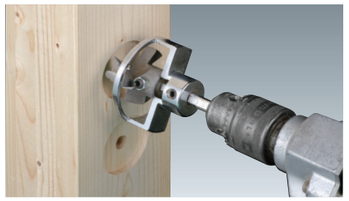
●丸座軸太ボルトやバネ付座金などに使用する座掘り用の工具です。

特　長

●電動ドリルに簡単に取り付けることができます。
●簡単な操作で座掘りの深さが設定できるため、過剰な座掘りを防止します。

セット内容	座掘りストッパー用カップ：1個
	超硬チップ付座掘り錐A（直径50mm）・B（直径60mm）：1個
	座掘りカッター用シャフト（12mm）：1個
梱　　包	各1個／ケース

■使用例

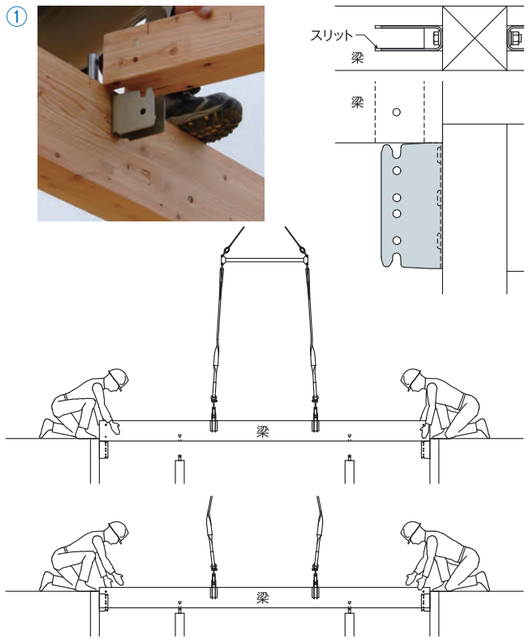


評定書、技術資料、試験成績表などは 株式会社タツミ 検索 www.tatsumi-web.com ▶▶▶「ダウンロード」をご覧ください。

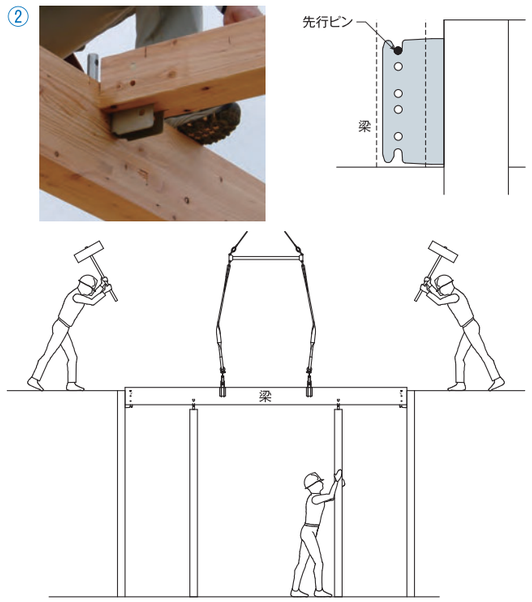
梁の取り付け-1 [柱-柱間]

①梁が金物に近づいたら水平に保ち、梁の両端部を金物天端に載せ吊りワイヤーを若干緩め、梁のスリットから金物が見通せる事を確認して、梁両端部から同時に手を放します。
②スリットに金物が納まったことを確認し、先行ピンがアゴ部に掛かるまで、カケヤなどで軽く叩きます。
※梁の納まりが悪い場合は、加工及び金物の取り付け寸法等を確認してください。

①



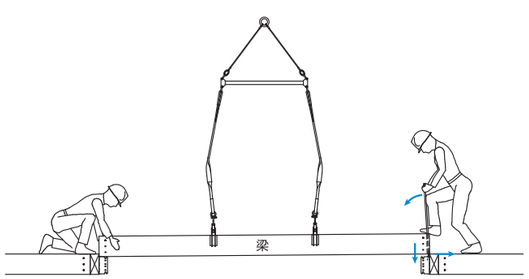
②

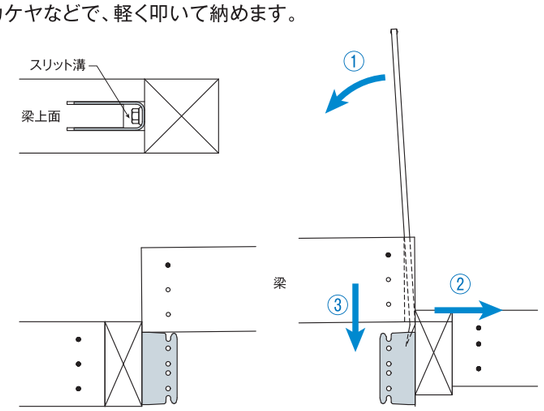


※梁下柱のパイプ金具と梁のパイプ穴の位置は必ず合わせてください。

梁の取り付け-2 [梁-梁間]

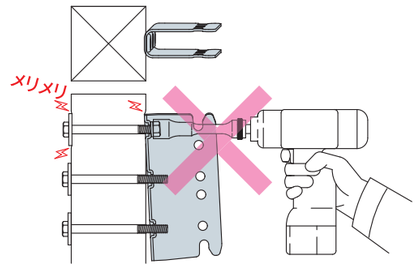
施工が進むにつれ、梁-梁間に梁を取り付けが辛くなります。
この様な場合には、梁-梁間を少しでも押し広げるように、施工を行ってください。
①バールなどをスリットの溝部分に差込みます。
②金物の取り付いた梁を押し広げます。
③梁が金物の上に載ったら、スリットと金物の位置を合わせ、カケヤなどで、軽く叩いて納めます。





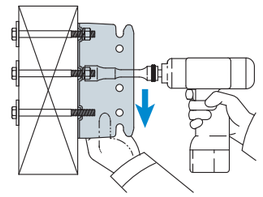
ボルト締めについて

梁受金物を取り付ける際には、締め付けトルクを 20~25N·mにてボルト及びナットを締め付けてください。(概ねナットのスプリングワッシャーが閉じる程度)下図のようにボルトを締め過ぎた場合、金物・座金が木材にめり込み、金物が斜めに取り付いたり、木材に割れが発生する恐れがありますので注意ください。

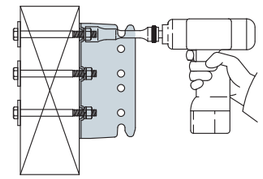


■正しい取り付け方

①金物を下方へ引き、ナットのスプリングワッシャーが平らにならない(閉じない)程度にボルトを取り付けます。

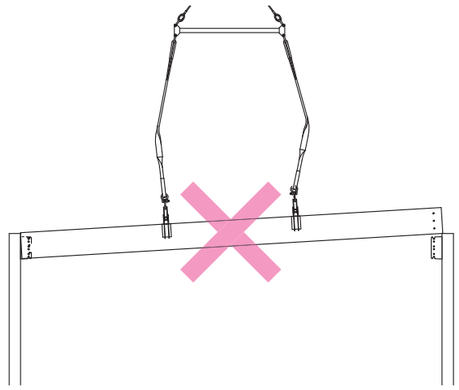


②金物が垂直に取り付いている事を確認し、ボルトの本締めを行います。



禁止行為

下図のように梁端部の一方を落し込んでしまうと、もう一方の梁端部が梁を受ける材(梁・柱)に乗り、納めにくくなります。また、梁受金物に先行ピンが乗りきらず、梁が落下する場合もあります。必ず、両端部を水平に保ち、同時に納めてください。梁が傾いたまま、カケヤなどで無理に叩くと、梁及び金物が損傷する場合があります。



※梁を吊り上げる前に、先行ピンが打たれているか、必ず確認してください。

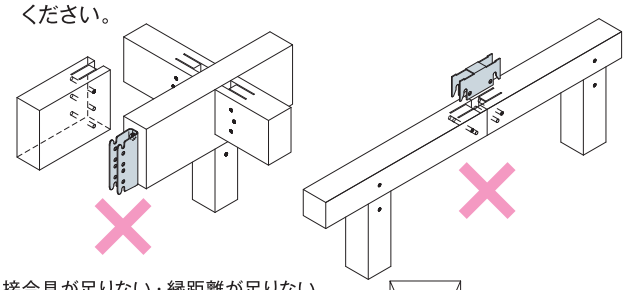
評定書、技術資料、試験成績表などは 株式会社タツミ 検索 www.tatsumi-web.com ▶▶▶「ダウンロード」をご覧ください。

禁止・注意事項

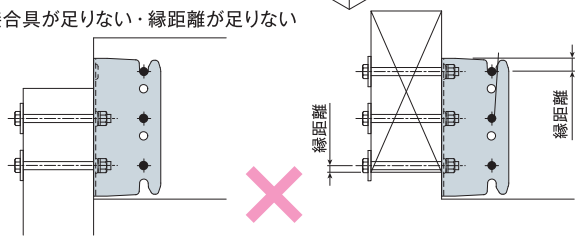
以下、禁止・注意事項を参考に適切な設計・施工を行ってください。

正規・推奨　注意・警告　禁止・不可

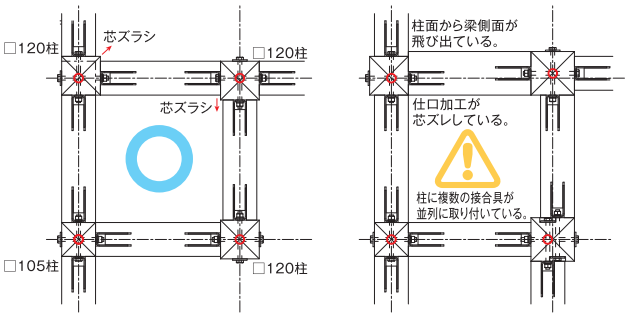
①用途以外には、使用しないでください。
②加工(変造・改造)しないでください。
③構造材に有害なザボリ等の欠き込みは、行わないでください。
④接合部耐力の許容値を超える設計は、行わないでください。
⑤屋外(暴露)・高温多湿等の特殊な使用環境下で使用しないでください。
⑥ボルトやドリフトピンが、熱橋とならないように対処してください。
⑦金物及び接合具は鉄製です。表面処理(めっき等)がなくなると錆びます。表面処理は、水掛かり、異種金属との接触等々、水分の影響を受け減少しますので、上記2項目を含め、結露等の水分対策を講じてください。
⑧横架材と横架材の結合土台以外の横架材を途中で継ぐこと(継手)は出来ません。
⑨接合部(仕口・継手)の加工寸法及び接合方法は、変更しないでください。



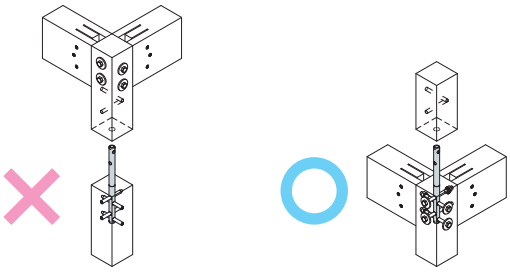
接合具が足りない・縁距離が足りない



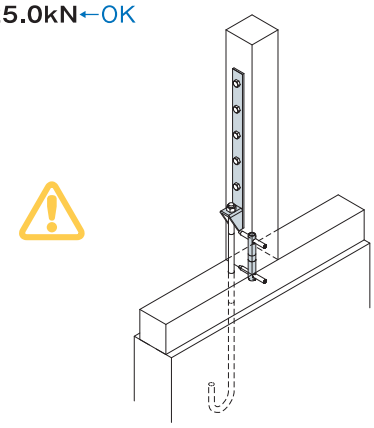
⑩仕口加工において部材芯と加工芯を合わせてください。木材と金物の芯がズレる場合、所定の接合耐力が得られないことがあります。(□105mm柱を基本とする建物にて□120mm柱の芯ズラシを行う場合を除く。)



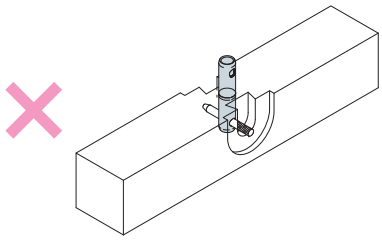
⑪柱の継手…柱の中間で継ぐことは出来ません。必ず横架材接合部の各階天端位置でHDP-10またはHDP-CCを使用してください。



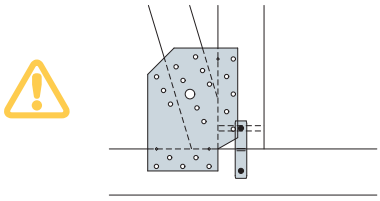
⑫補強金物と接合金物を併用しても耐力合算はできません。どちらか大きな耐力値を使用してください。
S-HD25：**25kN**+HDP-10：**10.6kN**=**35.6kN**←NG
S-HD25：**25.0kN**←OK



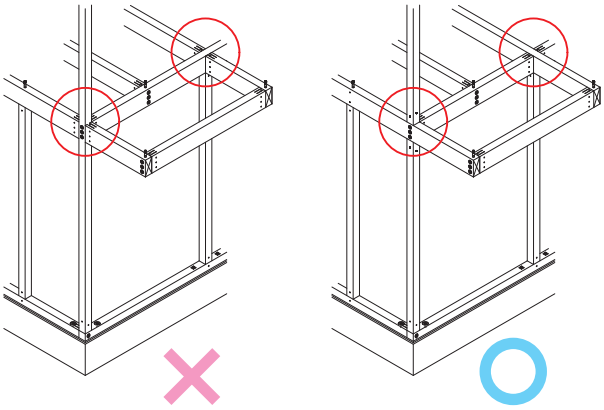
⑬在来軸組工法に接合金物を用いる場合は、在来仕口と干渉しない部位、耐力上支障のない範囲で使用してください。



⑭筋かい金物ほか補強金物を使用する際には、金物、接合具が干渉しないことを確認してください。(パイプ金物に打ち込むドリフトピンの方向にご注意ください。)



⑮張り出し(片持ちになる)バルコニーや、オーバーハング部の接合は、張り出す梁を掛渡し(跳ね出し)とし、梁受金物単体の接合としないでください。



⑯接合金物に同梱の「付属品」がある場合は、「付属品」を正しくご使用ください。「付属品」を使用しない場合は、所定の耐力を保証できません。
※「禁止・注意・警告」事項の施工、構造材等のアテなどの不良等々により不具合が生じた場合、当社では責任を負いかねます。やむを得ず上記「禁止・注意・警告」行為を行う場合は、設計者の責任においてしかるべき補強等行うことをお勧めいたします。